

令和6年度 県中国研 第1回 代議員会・研究部総会合同会議

日時：令和6年6月5日（水）15：00～16：00

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会：主務者 小宅 陽久

- 1 副会長挨拶 (副会長〈岐阜〉 加納中 村山 邦博 先生)
- 2 令和6年度の活動の方向
 - ① 令和6年度の活動に関して (不破中 小宅 陽久 主務)
 - ② 美濃大会について (美濃大会実行委員長 下有知中 澤田 通直 先生)
 - ③ 美濃大会の研究・運営について (下有知中 半田 啓之 美濃地区研究部長)
(八幡中 上村 光一 美濃大会実行委員)
 - ④ 令和6年度の研究の方向
全体研究構想・令和6年度の研究について (岐阜中央中 北原 章大 研究総括)
話す聞く研究構想 (上石津学園 片山 博寿 話す・聞く部長)
書くこと研究構想 (東可児中 梅田 佳宏 書くこと部長)
読むこと研究構想 (下呂中 上條 亘 読むこと部長)
言語文化研究構想 (蘇原中 河合 のぞみ 言語文化部長)
「ぎふこくご賞」の応募に関して (川辺中 細江 隆一 研究副総括)
 - ④ 各地区の代議員について (八幡中 上村 光一 総務部長)
 - ⑤ 会計部、広報部、情報部、編集部から
会計収支決算・予算について (笠松中 原 博一 会計部長)
情報部の活動について (大垣市立北中 和田 光平 情報部長)
機関紙「ぎふこくご」について (蘇南中 加藤 祐輝 広報部長兼編集部長)
- 3 ご指導 岐阜県教育委員会 義務教育課 馬場雅也 課長補佐
- 4 おわりの言葉 (会長 岐阜清流中 村田 伊津子 先生)

令和6年度 研究部各部会

日時：令和6年6月5日（水）16：00～16：45

於：オンライン（Zoom）

【会次第】

司会進行：県中国研 領域部長

- 1 自己紹介
- 2 令和6年度の研究について
 - ・美濃大会当日の指導案検討、研究の重点について確認して共通理解を図る。
 - ・「令和6年度研究構想」をもとに、美濃大会に向けての見通しをもつ。
 - ・年度末には、美濃大会の指導案や、実践の成果と課題を成果物としてまとめていく。
 - ・各部会の成果物については中国研ホームページ「ぎふこくご」にアップしていく。(終了後、部会ごとに解散)

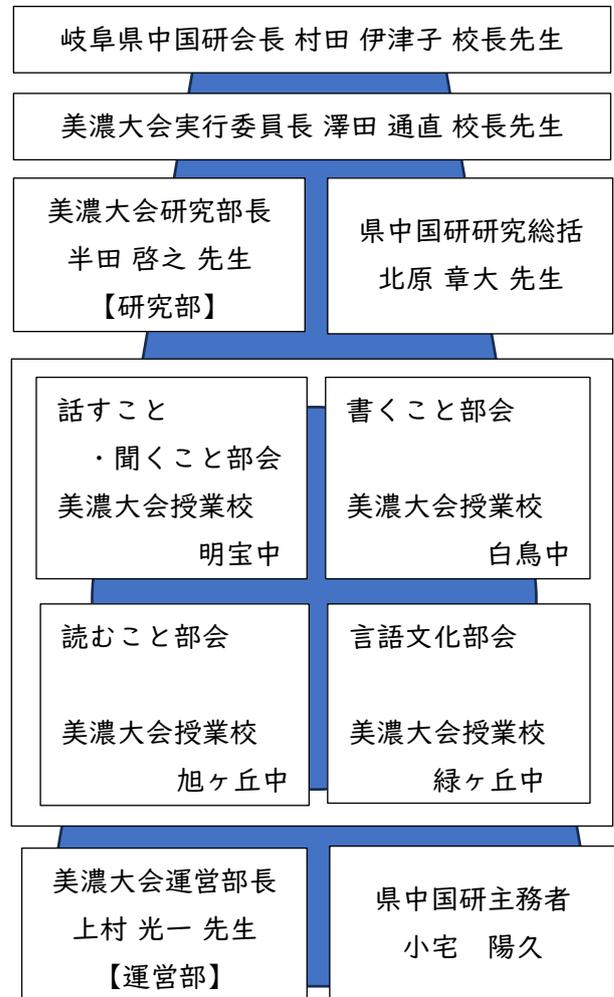
岐阜県中国研 令和6年度の活動について

垂井町立不破中学校 小宅陽久

研究実践を積み重ねる持続可能な県大会の在り方

今年度10月21日(月)、24日(木)に実施される美濃大会に向けて現在準備を進めております。具体的には、右の図1のような組織をつくり、運営方法や指導案検討等を行っています。今回の県大会では、美濃地区の秋の市教研を公開授業(対面)とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施します。これは、各郡市にある国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで、県大会を開催していく意義が明確になると考えたからです。また、教員数の減少や働き方改革の推進についても考慮し、今後も持続可能な県大会になるようにしていきたいと考えています。

昨年度は、8月18日(金)に関市生涯学習拠点施設わかさ・プラザにおいて、中国研夏季ゼミナール及び美濃大会準備委員会を対面で実施することができました。この会では、「美濃大会を見据え、美濃地区の先生方全員で中国研の研究についての理解を深める」「領域ごとに、研究の重点や実践を共有し、市教研や公開授業についての見通しをもつ」ことをねらいとし、県の研究部からの基調提案を行ったり、美濃大会に向けた現在の状況を共有したりすることができました。また、岐阜県教育委員会 義務教育課 加藤尚子課長補佐様からのご指導をいただくことができ、今後の方向性がさらに明確になりました。その後の分科会では、研究内容や、市教研についての授業の検討等、領域ごとにさらに具体的な話し合いを行うことができました [写真1]。



[図1] 令和6年度美濃大会組織図



[写真1] 8月18日夏季ゼミナールの様子

岐阜県規模の大きな教科部会を目指して

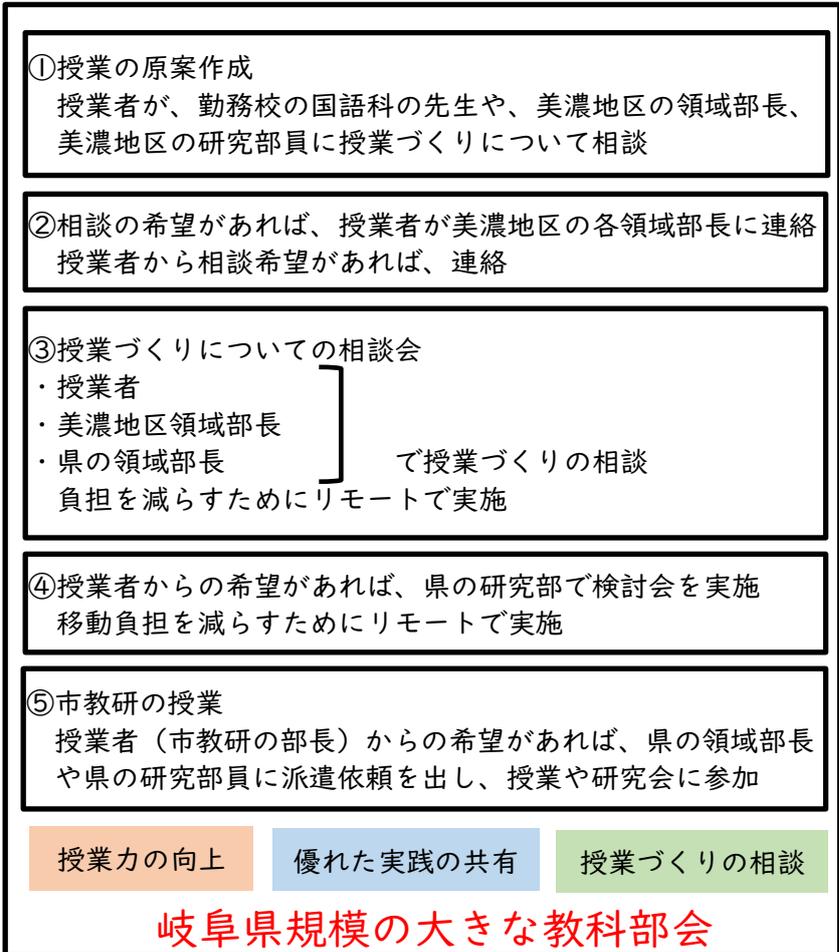


〔写真2〕 話すこと・聞くこと部会の様子（夏季ゼミナール）

私たち中国研は、「研究部」をこれまで以上に機能させることで「岐阜県規模の教科部会」を目指して取り組んでいます〔写真2〕。岐阜県内の先生方の授業改善の一助となるような情報を提供すること」「素晴らしい実践、汎用性・再現性の高い実践を広めていくこと」を実現させるために図3のような仕組みを作り、研究総括（岐阜中央中北原章大先生）、領域部長（話すこと・

聞くこと部長 上石津中 片山博寿先生、書くこと部長 東可児中 梅田佳宏先生、読むこと部長 下呂中学校 上條 亘先生、言語文化部長 蘇原中 河合のぞみ先生）を中心に、部会を開催したり、情報共有をしたりしながら研究を進めています。美濃大会に向けては、県の領域部長と美濃地区の領域部長が、指導案検討や各領域の重点について定期的に連絡を取り合っています。また、昨年度、10月30日（月）、31日（火）に美濃地区で実施された市教研に、県の領域部長や研究部員が参加しました。事前に指導案の検討を重ね、実際の授業を参観しながらさらに授業改善を行うことができました。参観した県の領域部長の話からも、「県の研究内容と美濃地区の主張点が共有でき、今後の方向性を確認して進めることができている」「『古典に親しむ』ための適切な言語活動の設定を考えていく」「指導に生かす評価と記録に残す評価を位置付けた単元の構想を大切にする」など、美濃大会に向けた研究実践に確かな歩みを感じることができています。

今年度は、いよいよ美濃大会が開催されます。6月の市教研、夏季ゼミナールを有効活用しながら、当日の授業づくりを進めていきたいです。今後も、美濃地区の先生方と県の研究部が協働し、さらに実践を積み重ねていきたいと考えています。



授業力の向上

優れた実践の共有

授業づくりの相談

岐阜県規模の大きな教科部会

〔図3〕 中国研研究部の仕組み

実践を広め、深める中国研ホームページの紹介

ぎふこくご

メール問い合わせ



[図4] 中国研HPトップページ

中国研の活動にご理解、ご賛同をいただけるように、そして、岐阜県規模の教科部会の資料共有の場として、中国研ではホームページを整備し、運用しています [図4]。

中国研には、「研究部」として、「話すこと・聞くこと部会」「書くこと部会」「読むこと部会」に加え、古典を中心とした実践を積み重ねる「言語文化部会」の四部会があります。これらの部会が中心となり作成して頂いた、授業実践の指導案等を「中国研ホームページ」(<https://gifukokugo.com>)にア

[図5] 中国研HPで閲覧可能な資料の一例

ーカブしており、様々な指導案・会議資料が閲覧・ダウンロード可能になっております。現在、ホームページには「全国大会」「飛騨大会」の指導案、部会ごとに作成した単元構想表、「ぎふこくご賞」を受賞された先生の実践論文等が閲覧できるようになっています [図5]。掲載する資料については、岐阜県内の先生方が使いやすいように、これからも工夫改善していくことが必要ですが、このような取り組みを続け、生徒が満足感や達成感を得られるような汎用的な授業資料を作成、掲載していくことは、「国語が好きだ」「国語の授業はよく分かる」という岐阜県の生徒を育てることにつながっていくと思います。「明日の授業どうしよう?」「授業公開に向けて参考資料がほしい」「自分の授業をよりよいものにしたい」など、先生方がお困りの際や、授業改善、御指導で活用する際の参考にして頂けましたら幸いです。図6のQRコードよりアクセスしてください。よろしくお願ひします。



[図6] 中国研QRコード

令和6年度 中国研活動計画

日時	活動内容	留意点
5月15日(水)	第1回 役員会 ※美濃地区研究総括(半田先生)も役員会から参加する	※オンライン開催
6月5日(水)	第1回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各分会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和6年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・美濃大会について(当日の日程) ・ご指導 岐阜県教育委員会 義務教育課 馬場 雅也 課長補佐 【研究部各分会の内容】 ・自己紹介 ・令和6年度の研究構想の共有 ・研究部の活動の確認 ※美濃大会当日の指導案検討	※オンライン開催 ※上村先生より美濃地区の研究部員にも派遣依頼を送る。
各分会で領域部長が設定・実施	・美濃地区市教研(6月)に県の領域部長、研究部員が参加する。 ・美濃大会当日の指導案検討(授業公開は行わない)	※オンライン or 対面開催
7月 日()	第41回 NHK杯全国中学校放送コンテスト 岐阜県大会審査会	※会長、主務者、情報部長が出席
8月20日(火)	中国研夏季ゼミナール(美濃地区主催) 内容 美濃大会準備会 【全体会】 ・会長あいさつ ・夏季ゼミナール開催の趣旨の説明 ・基調提案(県中国研研究総括) ・美濃大会実行委員会より ・ご指導 美濃教育事務所 荒井 貴行 課長補佐 【分科会(研究部)】 ・研究の共通理解 ・美濃大会の指導案最終確認 ・美濃大会の日程確認等 ・美濃大会プレ授業について ・連絡方法の確認 【分科会(運営部)】 ・美濃大会の実施方法、内容についての最終確認(日程、授業校、動きの詳細) ・リハーサルの実施 ・今後の県大会の在り方	※対面で実施 ※夏季ゼミナールは、美濃大会の準備会として、中国研本部役員と、美濃地区の国語科の先生方、県の研究部員で実施する。

各部会で領域部長 が設定・実施	・プレ公開授業（当日の授業校以外で公開） ・美濃大会当日の指導案検討	※オンライン or 対 面開催
10月21日（月） 24日（木）	岐阜県中学校国語科研究部会美濃大会 【ご指導をいただく先生方】 明宝中会場 飛騨教育事務所 今井 康之 課長補佐 白鳥中会場 美濃教育事務所 荒井 貴行 課長補佐 旭ヶ丘中会場 岐阜教育事務所 一川 宗弘 指導主事 緑ヶ丘中会場 西濃教育事務所 江口 知衣子 指導主事 全体指導 美濃教育事務所 荒井 貴行 課長補佐	※詳細は別紙
1月22日（水）	第2回 役員会 ・令和6年度の振り返り ・美濃大会の振り返り ・令和7年度の活動の方向の確認 ・ぎふこくご賞の審査	※オンライン開催
2月19日（水）	第2回 代議員会・研究部総会合同会議・研究部各部会 【代議員会・研究部総会合同会議の内容】 ・会長あいさつ ・令和6年度の振り返り ・美濃大会の振り返り ・令和7年度の事業計画、予算案、研究計画等 ・令和9年度西濃大会に向けて ・ご指導 岐阜教育事務所 一川 宗弘 指導主事 【研究部各部会の内容】 ・来年度の研究部員継続のお願い ・美濃大会の振り返りと今後の方向性	※オンライン開催

■ 今後の県大会サイクルの確認

H22	→	H26	→	H29	→	R3	→	R6	→	R9
東濃	間3年	可茂	間2年	錫(岐阜)	間3年	飛騨	間2年	美濃	間2年	西濃

・地区大会の開催および開催サイクルは、各部会の自主的判断において決定し、3年に一度見直すことを原則とする。（研究大会運営に関する規程より）

※現段階の案はこれまで通り上記のサイクルで県大会を実施していく。各地区、各都市の国語科研究部会での研究実践の成果を発表する場として県大会を位置付けることで県大会開催の意義が明確になると考えた。美濃大会のように各地区の秋の市教研を公開授業（対面）とし、授業公開日に合わせてオンラインで全体会を実施することで、教員の働き方改革も踏まえながら持続可能な県大会となっていくと考える。

令和6年度 美濃大会に向けて

美濃大会実行委員長

□一 絆を深める美濃大会 「組織の連携を強化した新しい県大会の在り方」の模索

昨年度までの美濃地区準備委員会において、次のような意見が出されている。

- ・各市町に市教研があるのだから、県大会をきっかけにして、市教研のレベルが上がり、市教研の実践の積み重ねを発表できるようなものであれば、県大会を地区ごとで行っていく意義があるのではないかと。市教研の実践の歩みを発表できるようなものにしてはどうか。
- ・美濃地区の市教研の情報を公開し、希望者がその授業を見に行くことができる仕組みを作るのも一案である。
- ・市教研をうまく活用し、その成果を県大会につなげて頂きたい。

こうした意見を踏まえ、今年度の美濃大会に向けて市教研を重要な実践の場、県や地区、市の連携の場として研究実践を重ねてきた。美濃地区各校の担当領域が決まり、授業準備に向けて、各部会で実践・検証が進められているところである。県中国研、各領域の研究内容を踏まえた実践、美濃大会としての提案性のある実践などについては、さらにブラッシュアップを図っていくというのが現状である。

これにより、美濃地区の研究体制の充実と市教研を活用した実践の推進、県(各領域)研究部との連携強化を今年度も同時並行で進めることで、県下に新しい県大会の在り方を示していけるようにする1年としたい。

□一 市教研等の計画

関市		美濃市	郡上市	
読むこと部会	言語文化部会	話す・聞く部会	書くこと部会	
4月19日(金) 第1回市教研(計画)	4月19日(金) 第1回市教研(計画)	5月2日(木) 第1回市教研(計画)		
5月15日(水) 県役員会 Web		※各研究部へ協力・連携依頼		
美濃大会実行委員会①書面連絡・確認				
6月5日(水) 代議員会 研究総会 Web		※各領域部会に参加		
6月14日(金)主事 第2回市教研(教材研究 会場:桜ヶ丘中)	6月14日(金)主事 第2回市教研(教材研究 会場:緑ヶ丘中)	6月20日(木) 第2回市教研 (教材研究会場:)	6月10日(月)主事 第1回市教研(教材研究 会場:八幡中)	
7月 美濃大会実行委員会②(対面)				
8月20日(火) 夏季ゼミナール 会場:日本まん真ん中センター(郡上市)				
		9月20日(金)主事 第3回市教研(事前授業研)		
美濃大会2日目(旭ヶ丘中) 10月24日(木)主事 1年 授業者 古川寛之教諭	美濃大会2日目(緑ヶ丘中) 10月24日(木)主事 3年 授業者 小川友也教諭	美濃大会1日目(明宝中) 10月21日(月)主事 3年 授業者 藤村茂将教諭	美濃大会1日目(白鳥中) 10月21日(月)主事 2年 授業者 高橋雅人教諭	
		11月19日(火)主事	11月19日(火)主事	

□—組織の現状

美濃大会 組織

美濃大会 実行委員長 澤田 通直 (下有知中)

美濃大会 副実行委員長 岩見 浩二 (美濃小)
福手 真 (大和中)

【美濃地区大会実行委員会】

- ・実行委員長 澤田 通直
- ・実行副委員長 岩見 浩二 福手 真
- ・運営部長 上村 光一
- ・研究部長 半田 啓之
- ：各部会長

【運営部 運営部長 (上村 光一)】

明宝中責任者	横山 亜希	大中小
白鳥中責任者	日置さゆり	白鳥中
旭ヶ丘中責任者	後藤健太郎	旭ヶ丘中
緑ヶ丘中責任者	波多野稜佑	緑ヶ丘中

【研究部 研究部長 (半田 啓之)】

【話す・聞く部会】(代表 原 英司)

顧問	岩見 浩二 (長)	美濃小
授業者	藤村 茂将	明宝中
部員	今井 啓文	昭和中
部員	市原 敬尚	昭和中
部員	羽賀 有那	美濃中
部員	川田 慎哉	美濃中
部員	原 英司	八幡中
部員	上村 光一	八幡中
部員	西脇 祐子	八幡中
部員	高橋 雄太	大和中
部員	横山 亜希 (頭)	大中小

【書くこと部会】(代表 上村 一貴)

顧問	福手 真 (長)	大和中
授業者	高橋 雅人	白鳥中
部員	山内 芳人	八幡西中
部員	日置 さゆり	白鳥中
部員	羽田野 真由	白鳥中
部員	島崎 翔平	高鷲中
部員	上村 一貴	郡南中
部員	上野 晴香	郡上東中
部員	小島 剛太 (頭)	高鷲中

【読むこと 部会】(代表 小林 由佳)

顧問	加藤 尚子 (頭)	田原小
授業者	古川 寛之	旭ヶ丘中
部員	後藤 健太郎	旭ヶ丘中
部員	小林 由佳	桜ヶ丘中
部員	東海林 瞳	桜ヶ丘中
部員	梅村 あや	桜ヶ丘中
部員	古山 孝明	富野中
部員	永田 靖明	武芸川中
部員	石丸 高綱	武芸川中
部員	後藤 靖治	津保川中

【言語文化 部会】(代表 山本 絵美)

顧問	澤田 通直 (長)	下有知中
授業者	小川 友也	緑ヶ丘中
部員	山本 絵美	緑ヶ丘中
部員	波多野 稜佑	緑ヶ丘中
部員	辻 宏紀	緑ヶ丘中
部員	半田 恵子	緑ヶ丘中
部員	半田 啓之	下有知中
部員	松田 里江子	下有知中
部員	富村 恭子	小金田中
部員	庄司 龍平	小金田中
部員	武藤 修	板取川中

県中国研美濃大会に向けて

美濃大会運営部長
郡上市立八幡中学校
上村 光一

① 美濃大会の授業校

- ・「話すこと・聞くこと」(郡上市・美濃市)
 - 郡上市立明宝中学校 3年「合意形成に向けて話し合おう」(討論)
- ・「書くこと」(郡上市)
 - 郡上市立白鳥中学校 2年「根拠の適切さを考えて書こう」(意見文)
- ・「読むこと」(関市)
 - 関市立旭ヶ丘中学校 1年「大人になれなかった弟たちに……」(物語文)
- ・「言語文化」(関市)
 - 関市立緑ヶ丘中学校 3年「いにしえの心を受け継ぐ」夏草～おくのほそ道～(古典)

② 美濃大会までの流れの確認

- ・4, 5月 関市教研① 指導案検討 ※検討には県の領域部会にも参加依頼予定
- ・6月 郡上市教研① 指導案検討 ※検討には県の領域部会にも参加依頼予定
関市教研② 授業公開(読むこと・言語文化)
- ・8月 統一研究日・夏季ゼミ 領域別指導案最終検討・全体会リハーサル
- ・9-10月初 完成版の指導案で授業研をおこなう。
(「話す聞く」は美濃市教研③・「書くこと」は市教研以外で授業研を行う)
- ・10月21.24 美濃大会当日(2日間に分けて開催する)
※郡上市教研②と関市教研③を兼ねる。

③ R5年度の成果と課題・来年度への方向性

【成果】

- 県の領域部長とのつながりをもち、県の方向性を共有することで、美濃地区として実践し、県内へ提供できる研究の在り方について考えることができた。
- 市教研において、県の視点を踏まえた研究討議を行うことで、以下の点を共有することができた。
 - 「学ぶ必然」を見出す際に、目的意識(～のために)と付けたい力を整理することで、「主体的な学びの在り方」についても考えることができた。
 - 「ICTのよさ」については、過去の学習内容をアーカイブできるメリットを活かし、教具としての活かし方を考えることができた。また、ICTの活用についても、ICTありきの考え方ではなく、生徒が自主的に活用できる環境を整えることが大切であることが確認できた。
 - 「評価」については、自己評価や相互評価の仕方の工夫を考えるとともに、振り返ることによる効果を示していきたい。例えば、ロイロノートのアンケート機能を用いることで、リアルタイムで現状を把握したり、生徒の意欲喚起につなげたりできることを確かめることができた。

【課題】

- 美濃地区全体として、情報や方向性の共通理解に差があったり、経験年数の少ない先生方がどのように取り組むかをなかなか相談できなかつたりするなど、研究実践の具体化が進みにくい現状があること。
- ICTについては、郡上市と関市は「ロイロノート」、美濃市は「Teams」というように、アプリケーションが統一されていないため、実践内容が同じ土台で進みにくいこと。
- 授業校や授業者任せになってしまう雰囲気打破し、美濃地区全体をチームとして盛り上げていく必要があること。

【来年度への方向性】

- ・学ぶ必然やどの学校でもできる再現性の高さ（汎用性）を求めた授業研究を進めること。そのために、地区で共有できる共通のモデル文やサンプルの開発を進める。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・「トレーニング編+実践編」の単元構想といった新しい単元指導計画の在り方を見出し、どの生徒にも学びの実感を生み出せるようにする。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・知識・技能の積み重ねを次学年でも活用できるように、学習したことをタブレット等にアーカイブして、生徒が必要に応じていつでも取り出せる体制を築く。【「話す・聞く」・「書く」部会】
- ・生徒一人一人が自分で選択できる活動を位置づけた交流活動を工夫する。【「読む」部会】
- ・出口の言語活動の工夫や古典を学ぶ意義についての意識づけの工夫を図る。【「言語文化」部会】
- ・「主体性」をどのように評価するかを明確にし、「記録に残す評価」「指導に生かす評価」を単元構想表にも明記できるようにする。【「話す・聞く」・「書く」・「読む」・「言語」部会】
- ・グループワークの活用場面や形態を工夫し、生徒が主体的に取り組める場を位置づける。
【「話す・聞く」・「書く」・「読む」・「言語」部会】

以上のような成果、課題を受けた方向性を見出すことができた。授業校においては、今年度初めには、授業案の土台を作り、市教研での意見交流や検討を重ね、夏を迎えていきたいと考えている。

中国研 美濃大会について（当日の指導者の先生・授業日の決定について）

【10月21日（月）・24日（木） 美濃大会当日のご指導の先生方】

全体会

美濃教育事務所 課長補佐 荒井 貴行 先生

話す・聞く

飛騨教育事務所 課長補佐 今井 康之 先生

書く

美濃教育事務所 課長補佐 荒井 貴行 先生

読む

岐阜教育事務所 指導主事 一川 宗弘 先生

言語文化

西濃教育事務所 指導主事 江口 知衣子 先生

【美濃大会 公開授業の日程一覧】

話す聞く

授業会場：郡上市立明宝中学校 授業者：藤村 茂将 教諭

学年・単元・教材名：3年生「自らの考えを」合意形成に向けて話し合おう

授業日時：10月21日（月） 13：30～14：20

※授業後、全体会（白鳥中からのZoom配信）を分科会会場で視聴する。

※その後60分程度の授業研究会を行い、16：20に終了

書く

授業会場：郡上市立白鳥中学校 授業者：高橋 雅人 教諭

学年・単元・教材名：2年生「論理を捉えて」根拠の適切さを考えて書こう 意見文を書く

授業日時：10月21日（月）13:30～14:20

※授業後、全体会を本部役員が配信。参加者は分科会会場で視聴する。

※その後60分程度の授業研究会を行い、16：20に終了

読む

授業会場：関市立旭ヶ丘中学校 授業者：古川 寛之 教諭

学年・単元・教材名：1年生「大人になれなかった弟たちに……」

授業日時：10月24日（木）13:30～14:20

※授業後、60分程度の授業研究会を行い、15：45に終了

※その後、全体会を本部役員が配信。参加者は分科会会場で視聴する。閉会后、解散。

言語文化

授業会場：関市立緑ヶ丘中学校 授業者：小川 友也 教諭

学年・単元・教材名：3年生「いにしへの心を受け継ぐ」夏草～おくのほそ道から～

授業日時：10月24日（木）13:30～14:20

※授業後、60分程度の授業研究会を行い、15：45に終了

※その後、全体会（旭ヶ丘中からのZoom配信）を分科会会場で視聴する。閉会后、解散。

令和6年7月1日

各中学校校長 様
各中学校国語科部員 様

県中学校国語科研究部会会長 村田 伊津子
県大会美濃地区大会実行委員長 澤田 通直
県大会美濃地区大会副実行委員長 岩見 浩二
福手 真

岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会のご案内(第一次)

盛夏のみぎり、皆様には益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は、岐阜県中学校国語科研究会の活動に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、本研究会では令和3年度の飛騨地区大会での成果を踏まえ、持続可能な県大会の在り方を模索するとともに、「言語能力の高まりを実感する言語活動」について、3年間の研究実践を進めてきました。つきましてはその実践のあゆみを、下記のとおり美濃地区での大会により発表いたしますので、是非とも多くの先生方にご参加いただき、ご意見を賜りますようお願い申し上げます。

記

【研究主題】

**生きてはたらく言語能力の育成
～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～**

1. 期 日 令和6年 10月 21日(月)、24日(木)

2. 日 程

<1日目> 10月21日(月)(会場校 郡上市立明宝中学校 郡上市立白鳥中学校)

13:30～14:20 【対面】	公開授業Ⅰ【話す・聞く】(明宝中 授業者 藤村 茂将 教諭) 公開授業Ⅱ【書 く】(白鳥中 授業者 高橋 雅人 教諭)
14:35～15:05 【リモート】	全体会Ⅰ(白鳥中から配信) ・県中国研会長挨拶 ・県中国研による基調提案 ・美濃地区実践発表
15:05～16:15 【対面】	分科会(白鳥中・明宝中) ・県中国研副会長挨拶 ・研究構想の説明 ・実践発表 ・質疑応答及び研究討議 ・指導助言

<2日目> 10月24日(木)(会場校 関市立旭ヶ丘中学校 関市立緑ヶ丘中学校)

13:30～14:20 【対面】	公開授業Ⅲ【読 む】(旭ヶ丘中 授業者 古川 寛之 教諭) 公開授業Ⅳ【言語文化】(緑ヶ丘中 授業者 小川 友也 教諭)
14:35～15:45 【対面】	分科会(緑ヶ丘中・旭ヶ丘中) ・県中国研副会長挨拶 ・研究構想の説明 ・実践発表 ・質疑応答及び研究討議 ・指導助言
15:45～16:00 【リモート】	全体会Ⅱ(旭ヶ丘中から配信) ・指導助言 ・美濃大会実行委員長 挨拶

3. 全体会Ⅰ内容 司会進行（県中国研 主務 垂井町立不破中学校 小宅 陽久 教諭）
 県中国研会長挨拶 （県中国研 会長 岐阜市立岐阜清流中学校 村田 伊津子 校長）
 基調提案 （県中国研 研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大 教諭）
 美濃地区実践発表 （美濃地区研究主任 関市立下有知中学校 半田 啓之 教諭）

4. 分科会内容

- 県中国研副会長挨拶
 研究構想の説明
 実践発表
 質疑応答及び研究討議
 指導助言

各部会担当者

期日	部会	司会及び研究構想の説明 県中国研各領域部長	実践発表 美濃地区各領域部長	挨拶 県中国研副会長
10/21 (月)	話すこと 聞くこと	片山 博寿 教諭 大垣市立上石津学園	原 英司 教諭 郡上市立八幡中学校	村山 邦博 校長 岐阜市立加納中学校
10/21 (月)	書くこと	梅田 佳宏 教諭 可児市立東可児中学校	上村 一貴 教諭 郡上市立郡南中学校	田口 広志 校長 七宗町立神淵中学校
10/24 (木)	読むこと	上條 亘 教諭 下呂市立下呂中学校	小林 由佳 教諭 関市立桜ヶ丘中学校	木下 隆一 校長 大野町立揖東中学校
10/24 (木)	言語文化	河合 のぞみ 教諭 各務原市立蘇原中学校	山本 絵美 教諭 関市立緑ヶ丘中学校	河合 広映 校長 土岐市立泉中学校

公開授業者

期日	部会	授業者・学校名	学年・単元名・教材名	指導助言者
10/21 (月)	話すこと 聞くこと	藤村 茂将 教諭 郡上市立明宝中学校	3年生 自らの考えを 「合意形成に向けて話し合おう」	飛騨教育事務所 今井 康之 課長補佐
10/21 (月)	書くこと	高橋 雅人 教諭 郡上市立白鳥中学校	2年生 論理を捉えて 「根拠の適切さを考えて書こう」	美濃教育事務所 荒井 貴行 課長補佐
10/24 (木)	読むこと	古川 寛之 教諭 関市立旭ヶ丘中学校	1年生 心の動き 「大人になれなかった弟たちに……」	岐阜教育事務所 一川 宗弘 指導主事
10/24 (木)	言語文化	小川 友也 教諭 関市立緑ヶ丘中学校	3年生 いにしえの心を受け継ぐ 「夏草～おくのほそ道から～」	西濃教育事務所 江口 知衣子 指導主事

5. 全体会Ⅱ内容 司会進行（県中国研 主務 垂井町立不破中学校 小宅 陽久 教諭）
 指導助言 （岐阜県教育委員会 美濃教育事務所 荒井 貴行 課長補佐）
 美濃大会実行委員長挨拶 （美濃大会実行委員長 関市立下有知中学校 澤田 通直 校長）

6. 参加申し込み・その他

- 本発表会に参加される先生は、別添の「岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会 参加申し込みのご説明」に記載されていますQRコードからアンケートフォームにご回答ください。
 アンケートフォームにご記入頂いたメールアドレスに、10月15日（火）18：00までに、当日の資料、全体会Ⅰ・ⅡのミーティングID、パスワード等を送付させていただきます。
 その他、ご不明な点がございましたら、垂井町立不破中学校 小宅 陽久までメールでご連絡ください。 メールアドレス chukokuken0420@gmail.com

岐阜県中学校国語科研究部会 美濃地区大会 参加申し込みのご説明

【参加申し込み方法】

令和6年10月11日(金)12:00までに下記の方法でお申し込み下さい。

方法① インターネットに接続されたPC・タブレット等で、次のURLを選択して、右クリック
その後、「ハイパーリンクを開く」をクリックする

方法② QRコードをスマホ・タブレットなどのカメラで読み取る

アンケートフォームのページで必要事項を入力後、送信して下さい。スマホ・タブレット・PC等から入力可能です。入力されたメールアドレスに10月15日(金)18:00までに、公開授業指導案、全体会及び分科会のミーティングID、パスワード等を送らせて頂きます。

URL https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfbY-04_bLSRi6sWe74E9gbSBoV-8oWJeYXvIIWZzVmTMkVIA/viewform

QRコード



【参加申し込み後は】

10月15日(金)18:00までに、eメールにて、公開授業指導案、全体会及び分科会のミーティングID、パスワード等をお送りいたします。そのメールを申し込み完了のお知らせとさせていただきます。

chukokuken0420@gmail.com のアドレスから一斉送信させていただきますので、**このアドレスからのeメールが受信できるよう、予め設定をお願いします。**

校務用パソコンのメールアドレスでは、上記の設定が難しい場合もあると思われます。その際は、大変お手数ではございますが、一旦個人のアドレスを登録して頂き、ミーティングIDなどを受信された後に、所属校の校務パソコンに転送して頂くなど、工夫して頂けると幸いです。

10月15日(金)18:00になっても、ミーティングID等が届かない場合は、下記担当者のメールアドレスに、eメールでお問合せ下さい。

参加申し込みに関するご質問は、

chukokuken0420@gmail.com

垂井町立不破中学校 小宅 陽久(おやけ はるひさ)まで、
eメールでお願いいたします。

令和6年度 美濃大会役割分担

県中国研主務:小宅 陽久

明(話・聞) 白(書) / 旭(読) 緑(言文)

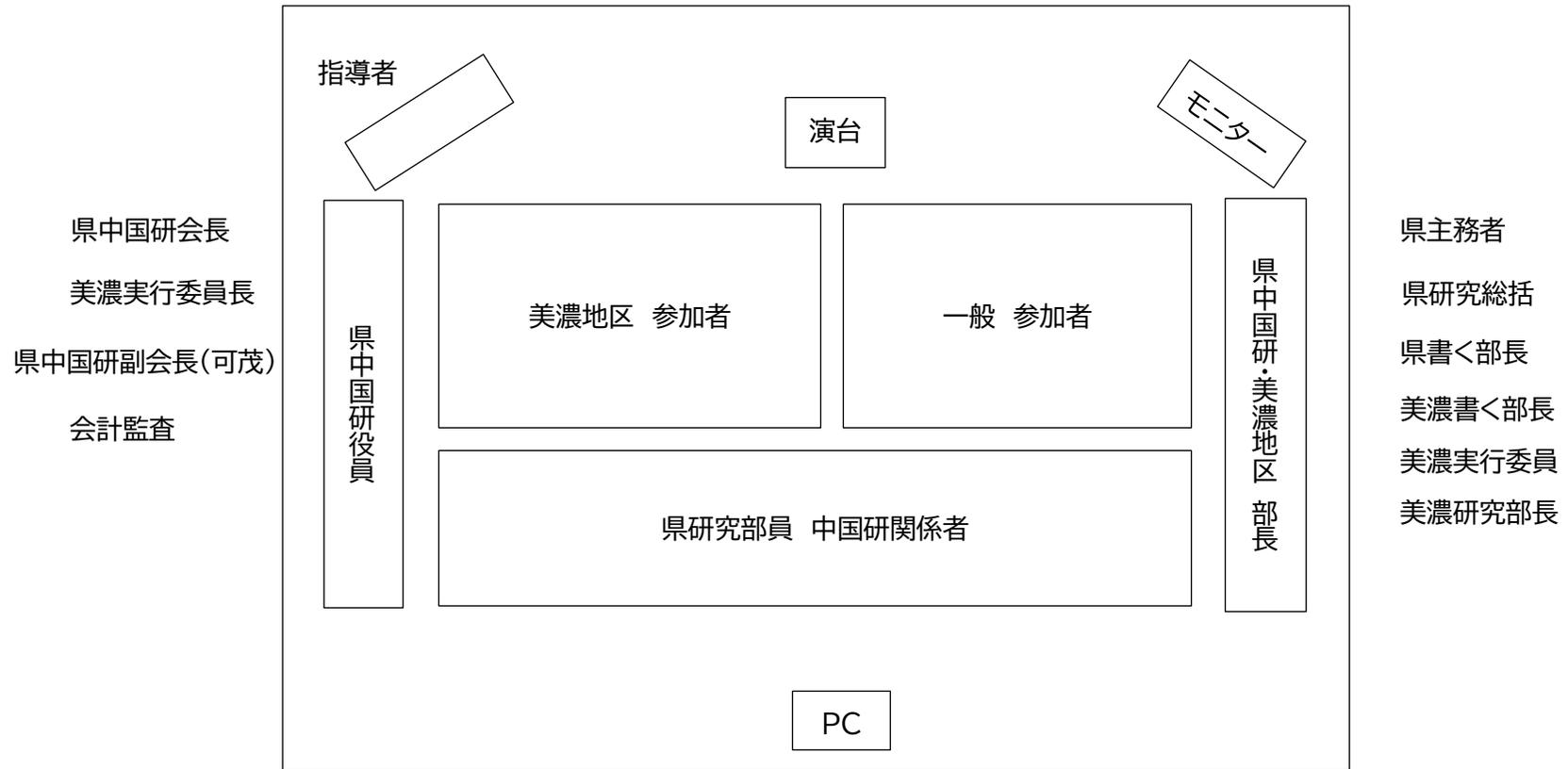
お名前・お立場		事前準備(■は大会後)	当日役割		全体会 I (10/21) 白鳥中より配信	分科会 (10/21) 話聞・書	分科会 (10/24) 読・言文	全体会 II (10/24) 旭ヶ丘中より配信
県中国研 本部役員	会長 村田 伊津子会長	<input type="checkbox"/> 当日の指導者(県指導主事)依頼 <input type="checkbox"/> 美濃地区の要望に応じて、指導者(県指導主事)の事前指導依頼 <input type="checkbox"/> 歴代会長先生への大会のご案内	<input type="checkbox"/> 全体会 I 挨拶		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)
	各地区の副会長 村山 邦博副会長(岐阜) 木下 隆一副会長(西濃) 田口 広志副会長(可茂) 河合 広映副会長(東農) 石地 千佳子副会長(飛騨)	<input type="checkbox"/> 各郡市の市教研や、各校での参加呼びかけ	<input type="checkbox"/> 各分科会挨拶 岐阜→話す・聞く 可茂→書く 西濃→読む 東濃・飛騨→言語文化	村山 田口 木下 河合 石地	○明(リ) ○白(対) ○自校(リ) ○自校(リ)	○明(対) ○白(対) - -	- - ○緑(対) ○旭(対)	○自校(リ) ○自校(リ) ○緑(リ) ○旭(対)
	評議員・会計監査 奥田 晋也 評議員 松永 健一郎会計監査 高橋 直浩会計監査	<input type="checkbox"/> 各郡市の市教研、各校での参加呼びかけ ■年度末における会計監査	評議員→話す・聞く 会計監査→書く 会計監査→読む	奥田 松永 高橋	○明(リ) ○白(対) ○自校(リ)	○明(対) ○白(対) -	- - ○緑(対)	○自校(リ) ○自校(リ) ○緑(リ)
	主務 小宅 陽久	<input type="checkbox"/> 当日の動き・分担作成(中国研役員本部) <input type="checkbox"/> 美濃地区で作成した資料を当日の指導者の先生へ郵送※10月4日(金)までに <input type="checkbox"/> 第1次案内(7月)第2次案内(8月)最終案内(9月)の作成・発送 <input type="checkbox"/> 参加者の取りまとめ・名簿作成、ミーティング ID・公開授業指導案等をメールにて参加者に送付 ■美濃大会後「ぎふこくご」の執筆	<input type="checkbox"/> 第1次案内発出 <input type="checkbox"/> 大会参加者取りまとめ ※全体会のみへの参加も可とする <input type="checkbox"/> 全体会 I は白鳥中で zoom 会議を開く <input type="checkbox"/> 全体会 II は旭ヶ丘中で zoom 会議を開く □共同主催者(北原)		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)
	総務部長 上村 光一	<input type="checkbox"/> 各郡市代議員への参加呼びかけの依頼(メールで、第1次案内・第2次案内・最終案内を送付し、代議員の方へのアナウンスをする)	<input type="checkbox"/> 全体会 I は白鳥中で参加 <input type="checkbox"/> 全体会 II は旭ヶ丘中で参加		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)

情報部長 和田光平	<input type="checkbox"/> 美濃大会の資料(指導案等)を中国研ホームページにアップ※10月4日(金)までに			○自校(リ)	—	○旭(対)	○旭(対)
研究総括 北原 章大 研究副総括 細江 隆一	<input type="checkbox"/> 全体会 基調提案の準備(北原) <input type="checkbox"/> 分科会の流れの確定と領域部長との共通理解(研究の横揃え) ※分科会「研究構想の説明」と「実践発表」、「質疑応答及び討議」「指導助言」をそれぞれ何分くらいで行うか等のプラン作成 (美濃半田研究部長と共通理解) ■美濃大会後「ぎふこくご」の執筆 ■美濃大会後研究の成果と課題をまとめる	<input type="checkbox"/> 全体会 I 基調提案の発表(北原) <input type="checkbox"/> 緊急対応(細江) <input type="checkbox"/> 全体会 I は白鳥中で参加 <input type="checkbox"/> 全体会 II は旭ヶ丘中で参加	北原	○白(対)	○白(対)	○旭(対)	○旭(対)
			細江	○自校(リ)	—	○緑(対)	○緑(リ)
各領域部長 話すこと・聞くこと 片山 博寿 書くこと 梅田 佳之 読むこと 上條 亘 言語文化 河合 のぞみ ※県の研究部員も領域部長と同じ動き	<input type="checkbox"/> 授業実践提供者との指導案作成に関わる検討会の計画・実施・指導 <input type="checkbox"/> 分科会実践発表作成に関わる検討会の計画・実施・指導 <input type="checkbox"/> 分科会の「研究構想の説明」発表準備 <input type="checkbox"/> 県中国研 研究部員に「第一次案内」などを、メールで送付し、大会への参加を呼びかける ■美濃大会後「ぎふこくご」の執筆 ■美濃大会後研究の成果と課題をまとめる	<input type="checkbox"/> 分科会「研究構想の説明」発表 <input type="checkbox"/> 当日の分科会は各授業校で行う(対面) (全体会 I・IIのために zoom 会議を開くのは県の領域部長)	片山	○明(リ)	○明(対)	—	○自校(リ)
			梅田	○白(対)	○白(対)	—	○自校(リ)
			上條	○自校(リ)	—	○旭(対)	○旭(対)
			河合	○自校(リ)	—	○緑(対)	○緑(リ)
広報部長兼編集部長 加藤 祐輝	<input type="checkbox"/> 美濃大会研究紀要は作成しない。機関紙「ぎふこくご」で、成果・課題を報告する。その文面・構成(ページ数等)を検討し、依頼をかける。 ■美濃大会後「ぎふこくご」取りまとめ			○明(リ)	○明(対)	—	○自校(リ)
会計部長 原 博一	<input type="checkbox"/> zoom ライセンス購入における会計処理 <input type="checkbox"/> 美濃地区の準備会(対面)の会計処理			○白(対)	○白(対)	—	○自校(リ)

	お名前・お立場	事前準備(■は大会後)	当日役割		全体会Ⅰ (10/21) 白鳥中より配信	分科会 (10/21) 話聞・書	分科会 (10/24) 読・言文	全体会Ⅱ (10/24) 旭ヶ丘中より配信
美濃地区役員 及び 領域部長・授業実践提供者の動き	美濃大会実行委員長 澤田 通直 会長	<input type="checkbox"/> 美濃地区運営全体指導 (美濃地区内における対面での出張 における会場校所属長の方へのご 連絡)	<input type="checkbox"/> 全体会Ⅱ挨拶		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)
	美濃大会副実行委員長 岩見 浩二 副会長 福手 真 副会長	<input type="checkbox"/> 発表・運営全体指導 <input type="checkbox"/> 事務所・市教委への案内		岩見	○ 明(リ)	○ 明(対)	—	○ 自校(リ)
				福手	○ 白(対)	○ 白(対)	—	○ 自校(リ)
	美濃大会実行委員 上村 光一	<input type="checkbox"/> 美濃地区の先生方の当日までの動 き・役割分担作成 <input type="checkbox"/> 当日の動き・分担作成 <input type="checkbox"/> 全体会「美濃地区の取組の紹介」の 発表準備 <input type="checkbox"/> 8月20日(火)夏季ゼミナールの派 遣依頼作成・発出 <input type="checkbox"/> 美濃大会リハの企画・運営	<input type="checkbox"/> 全体会Ⅰ「美濃地区実践発 表」の発表		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)
	美濃地区研究主任 半田 啓之	<input type="checkbox"/> 分科会 美濃地区領域部長による 「実践発表」における枠組みの提案 (時間・内容の横揃え) <input type="checkbox"/> 分科会「研究構想の説明」と「実践発 表」、「質疑応答及び討議」「指導助 言」をそれぞれ何分くらいで行うか のプラン作成 (県中国研研究総括と共通理解) <input type="checkbox"/> 全体会「美濃地区の取組の紹介」の 発表準備	<input type="checkbox"/> 全体会「美濃地区実践発表」 の発表		○ 白(対)	○ 白(対)	○ 旭(対)	○ 旭(対)
美濃地区領域部長 話すこと・聞くこと 原 英司 書くこと 上村 一貴 読むこと 小林 由佳	<input type="checkbox"/> 分科会「実践発表」の発表準備 <input type="checkbox"/> 分科会授業者との指導案検討 <input type="checkbox"/> 分科会会場のレイアウト <input type="checkbox"/> 分科会参加者把握 <input type="checkbox"/> 8月20日(火)夏季ゼミナールの各 部会の内容決定 <input type="checkbox"/> 最終版の「指導案」「単元構想図」「発 表資料」を9月20日(金)までに上	<input type="checkbox"/> 8月20日(火)夏季ゼミナ ールの進行 <input type="checkbox"/> 分科会の「実践発表」	原	○明(リ)	○明(対)	—	○自校(リ)	
			上村	○白(対)	○白(対)	—	○自校(リ)	
			小林	○自校(リ)	—	○旭(対)	○旭(対)	

<input type="checkbox"/> 言語文化 山本 絵美	村先生に提出 <input checked="" type="checkbox"/> 美濃大会後「ぎふこくご」の執筆 (授業者と合同で執筆する)		山本	○自校(リ)	-	○緑(対)	○緑(リ)
<input type="checkbox"/> 公開授業 授業者 <input type="checkbox"/> 話すこと・聞くこと 藤村 茂将 <input type="checkbox"/> 書くこと 高橋 雅人 <input type="checkbox"/> 読むこと 古川 寛之 <input type="checkbox"/> 言語文化 小川 友也	<input type="checkbox"/> 指導案・単元構想図の作成 <input type="checkbox"/> 指導案等の事前検討 <input checked="" type="checkbox"/> 美濃大会後「ぎふこくご」の執筆 (美濃地区領域部長と合同で執筆)	<input type="checkbox"/> 公開授業の実施 <input type="checkbox"/> 分科会の「実践発表」	藤村	○明(リ)	○明(対)	-	○自校(リ)
			高橋	○白(対)	○白(対)	-	○自校(リ)
			古川	○自校(リ)	-	○旭(対)	○旭(対)
			小川	○自校(リ)	-	○緑(対)	○緑(リ)

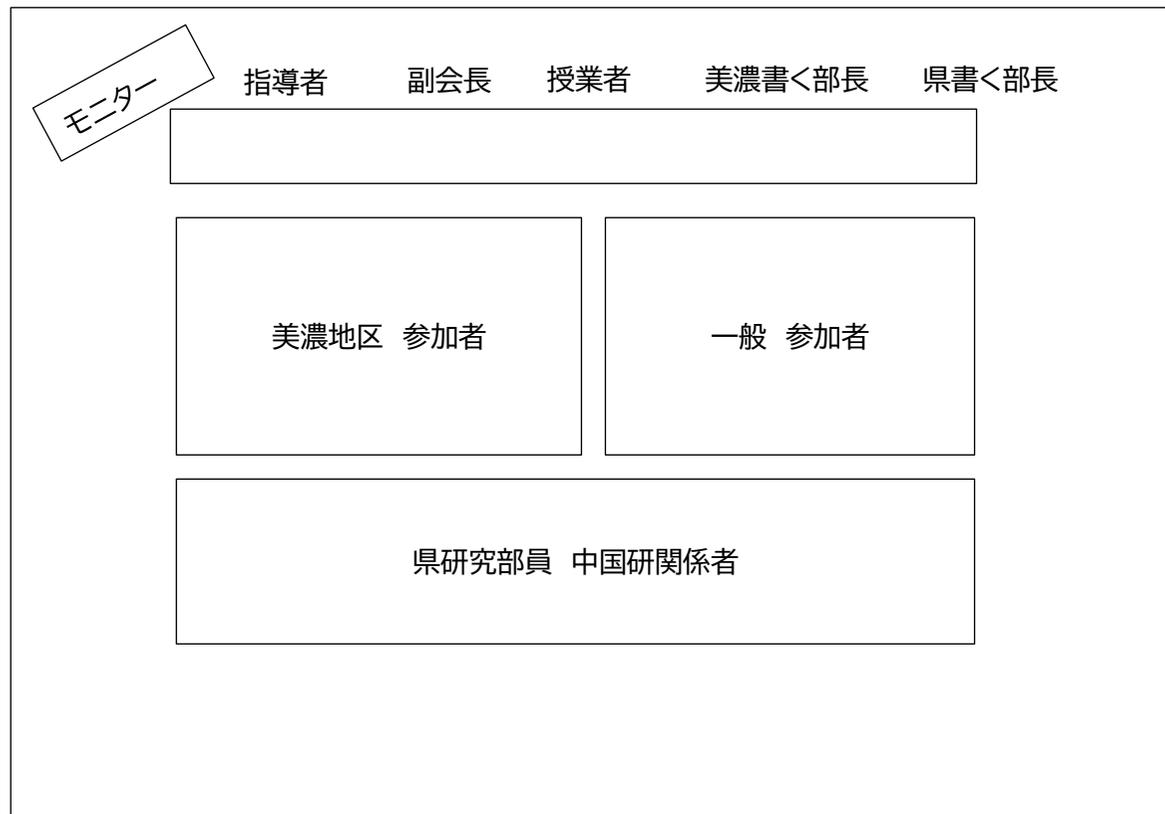
【全体会会場イメージ】 書くこと部会 会場(白鳥中) ※各会場で会場の大きさや参加者数を把握したうえでレイアウトを考える



※対面で会を行っている様子を zoom で配信(資料画面は画面共有で映す)

※状況により、全体会を役員のみで進める場合は、会議室等の小会場とし、参加者は各分科会会場にて Zoom 視聴の形をとることとする。

【分科会会場イメージ】 書くこと部会 会場(白鳥中) ※各会場で会場の大きさと参加者数を把握したうえでレイアウトを考える



令和6年度の方向性について

研究総括 岐阜市立岐阜中央中学校 北原 章大

「最強の教科部会」たる所以

1. はじめに

私は今年度、1～3年生を縦持ちし、久しぶりに全ての学年の授業を担当することになりました。今の時期は「シンシュン」「アイスプラネット」「握手」という読むことの単元に取り組んでいます。

実際に授業を行う身としては、少しでも分かりやすく、少しでも魅力的な授業をしたいと思います。そんな授業を創るために、言語活動をどうするのか、どんな単元構想で行うか、どんなワークシートを使うか、どんな導入をするためにどんなプレゼンをつくるか、板書はどう書くか、深めの発問はどのようにするか。それを考えることが、最も時間がかかりながら、また一方で楽しくもあります。

おそらく誰もがそうでしょう。長い試行錯誤の上で出来上がった単元は、きっとその先生やそれを受ける生徒にとって、「会心の一撃」に成り得る授業になるのではないのでしょうか。

そうやって国語の準備をしながら、思うことがあります。

「これだけ頑張った単元を、他の人に使ってもらったらどうだろう？」

「これだけ悩んだ単元を、他の先生方はどうやってやったんだろう？」

「このイマイチに終わってしまった単元を、あの先生ならどんなアプローチでやるんだろう？」

経験年数、市町、地区地域、全てを超えて国語のことを語り合うことができれば、岐阜県の国語を「大切だけど面白くない」なんて言わせないのに。そんなことを思います。

中国研の強みの一つは、「**ほぼすべての部員が、現役で授業を行っていること**」だと思います。授業を行うからこそ、単なる理論に留まらず、実際の生徒の姿で検証がなされ、成果と課題が明らかになります。

もう一つの強みが「**全ての部員が、よりよい国語の授業を創るために、努力を惜しまないこと**」だと思います。指導と評価の一体化、個別最適な学びと協同的な学びの一体的な充実、学習の調整と考えの再構築、難しい言葉が並びますが、私たちが求めるのは結局、生徒が「国語って楽しい！」と思える授業です。自ら求めるから、力がつく。力がつくから、求められる。求められるから、つながっていく。そうやってたくさんの人につながることで、中国研が「**最強の教科部会**」になっていくのだと思います。

1. 困った時に助けてくれる「国語のエキスパート集団」

2. 誰かや自分の「やってみたいこと」を実現するために、
とことん追求する集団

今年度開催される美濃大会では、美濃地区の先生方の実践を、岐阜県の国語の先生全員でバックアップする大会にしたいと思います。これまで中国研が創り上げてきた研究のつながりを大切にしながら、新しい時代に対応した授業実践の在り方を模索していきたいと思っています。よろしくお願いします。

2. 具体的な方途

- (1) 研究内容②③についての実践をブラッシュアップし、美濃大会にて具現する。
 (2) 「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。(※単元のパッケージング)

(1) 研究内容②③についての実践をブラッシュアップし、美濃大会にて具現する。

令和6年度の中国研では、全体研究構想（別紙参照）にある通り、昨年度までの流れと内容を踏まえ、大きな変更はすることなく研究を進めていきます。その研究の一つの節目として、美濃地区の先生方を中心に、美濃大会での実践提案を行います。

美濃大会での主張点は、以下の3つです。

- 新単元構想表とそれを活用した評価計画による指導案作成
- 個別最適な学びと協同的な学びの両立
- 指導と評価の一体化を図る単元構想

◆ 問題別調査結果			国語									
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	県の結果				自校の結果		平均正答率			
			80% 上回る	全国を 上回る	70% 下回る	全国を 下回る	県との 差	全国と 差	自校	岐阜県	全国	
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したのとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	○	○			▲3.8	▲2.4	85.1	88.9	87.5	
1二	インターネットの記事を読んで気付いた点として適切なものを選択する	意見と根拠など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる			●	●	1.8	0.9	66.0	64.2	65.1	
1三	相手の話をきいて発した意向について、述べ方の工夫とその意図を説明したのとして適切なものを選択する	話の内容を捉え、知りたい情報に合わせた効果的に質問することができるかどうかをみる		○			4.5	6.4	83.0	78.5	76.6	
1四	インタビューのまとめとしてのようなどき書きをするのか、自分の考えを書く	聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめることができるかどうかをみる	○	○			3.0	5.8	88.3	85.3	82.5	
2一	「発願する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	○			●	▲0.2	▲0.7	90.4	90.6	91.1	
2二	二つの文章に共通する表現の効果を説明したのとして適切なものを選択する	視点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えることができるかどうかをみる		○	●		9.3	11.5	74.5	65.2	63.0	
2三	それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する	文章の中心的な部分と付加的な部分について叙述を捉え、要言を把握することができるかどうかをみる				●	7.9	7.7	81.9	74.0	74.2	
2四	自分がこれからどのように本を読みたいかについて、読んだ文章を参考にして、知識や経験に熟れながら書く	文章を読んで理解したことなどを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりすることができるかどうかをみる		○			13.8	17.6	85.1	71.3	67.5	
3一	レポートの下書きの一部について、文の一部を直す意図として適切なものを選択する	読み手の立場に立って、叙述の仕方などを確かめて、文章を整えることができるかどうかをみる		○	●		6.2	7.4	61.7	55.5	54.3	
3二	漢字を書く(おしるって)	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる		○	●		4.3	6.1	50.0	45.7	43.9	
3三	「『判じ絵』とは何か」と見出しを付けた部分について、内容のまとまりで文章が二つに分かれる箇所を選択し、後半のまとまりに付	具体と抽象など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる			●	●	8.5	8.4	70.2	61.7	61.8	
3四	「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分について、その解説の仕方を考える	自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書くことができるかどうかをみる		○			7.7	8.8	80.9	73.2	72.1	
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す(いひける)	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いにして読むことができるかどうかをみる	○		●		▲7.5	▲9.1	73.4	80.9	82.5	
4二	原文の中の語句に対応する言葉が現代語で書かれた文章から抜き出す(いひ)	古典の原文と現代語の文章とを対応させて内容を捉えることができるかどうかをみる		○			▲4.0	▲2.8	71.3	75.3	74.1	
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる		○	●		7.4	10.6	60.6	53.2	50.0	

左に示したのは、私が勤務する中学校における、昨年度の全国学力・学習状況調査の結果の一部です。

岐阜県は全国に比して高い正答率であり、また本校は概ね、県の正答率も上回る結果でした。

特に本校は、思考、判断、表現に関する問題に対して、力が発揮できることが分かりました。また、自分の考えを形成し、それを知識や経験とつなぎ合わせ、広げたり深めたりする力がついていることが分かりました。(黄色い枠で囲んだ部分)

この結果は昨年度固有のものではなく、数年に渡る傾向として表れています。これは、中国研の研究内容にもある「考えの形成」に主軸を置いた授業を、数年間にわたって全学年で実施していることから、学年の母体や授業者の変更にも左右されることなく、高い正答率の維持につながっていると考えられます。

さらに他の教科(数学、英語)と比較したところ、この傾向は

◆ 問題別調査結果										
数学										
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	県の結果			自校の結果			平均正答率	
			上回る 80%以上	70%以上 下回る	全問正解	県全体の 平均正答率	自校の 正答率	岐阜県 の正答率	全国 の正答率	自校
1	5, 0, 3, 4, 7, 9の中から自然数を全て選ぶ	自然数の意味を理解しているかどうかをみる	●	●	●	12.6	12.4	58.5	45.9	46.1
2	$1.2 \times (4 + y/6)$ を計算する	数と算式の乗法の計算ができるかどうかをみる	○	○	○	1.5	3.5	84.0	82.5	80.5
3	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	空間における平面が1つに決まる場合について、正しい記述を選ぶ	○	○	○	19.1	18.5	48.9	29.8	30.4
4	y が x に反比例し、 x の値とそれに対する y の値について、正しい記述を選ぶ	反比例の意味を理解しているかどうかをみる	○	○	○	11.8	12.5	55.3	43.5	42.8
5	女子50m自由形の記録の、最初の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	○	○	○	8.1	11.3	57.4	49.3	46.1
6(1)	はしめの数から1つたさ、はしめの数にける数が2、たす数が3のこと	目的に応じて式を形作り、その意味を捉え、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	6.7	6.8	95.7	89.0	88.9
6(2)	はしめの数にける数が2、たす数が6ならば、計算結果はいつでも3の倍数になることを説明する	目的に応じて式を形作り、その意味を捉え、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	11.4	10.3	69.1	57.7	58.8
6(3)	はしめの数にける数がいくつ、たす数がいくつであれば、計算結果はいつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ条件を明らかにし、説明することができるかどうかをみる	○	○	○	3.0	4.8	45.7	42.7	40.9
7(1)	1961年～1975年の四半別雇用を求める	自分自身の意味を理解しているかどうかをみる	○	○	○	2.3	8.8	74.5	72.2	65.7
7(2)	2010年～2020年の賃金日額は、1991年～2010年の賃金日額より高くなっている傾向にある」と主張することができる理由を、新しければ	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え、判断の理由を数学的な根拠を用いて説明することができるかどうかをみる	○	○	○	0.8	5.8	39.4	38.6	33.6
8(1)	埼玉大学が新設を通過した経緯と新設大学が新設を通過した経緯の差について、グラフのどの点の x 座標の差を調べる	与えられた表やグラフから、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	4.2	5.3	62.8	58.6	57.5
8(2)	二人の選手のグラフが重複で表されていることの意味を説明する	事象を理想化・単純化することで表された重複のグラフを、事象に即して解釈することができるかどうかをみる	○	○	○	6.5	9.6	71.3	64.8	61.7
8(3)	グラフを用いて、新設大学の選手が埼玉大学の選手に勝つのか、6区間のスタート地点から選手Aの地点になるかを求める方法を説明する	事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	○	○	○	5.6	8.3	51.1	45.5	42.8
9(1)	2つの直線Bと直線Aが平行であること、三角形の合同を基にして、対角角又は隣角が等しいことを証明する	ある事柄が成り立つことを推測に基づいて説明することができるかどうかをみる	○	○	○	11.5	14.7	46.8	35.3	32.1
9(2)	二等辺三角形でない2つの合同な三角形のときに存在しないことについて、二等辺三角形のときの証明の中にある理由を説明する	条件を変えた場合に事柄が成り立たなくなった理由を、証明を振り返って説明することができるかどうかをみる	○	○	○	4.9	6.6	43.6	38.7	37.0

◆ 問題別調査結果										
英語										
設問番号	設問の概要	出題の趣旨	県の結果			自校の結果			平均正答率	
			上回る 80%以上	70%以上 下回る	全問正解	県全体の 平均正答率	自校の 正答率	岐阜県 の正答率	全国 の正答率	自校
1(1)	ある状況を示す英語を読み、その内容を簡単に要約している語句を選択する	読解を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○	○	○	5.2	7.2	86.2	81.0	79.4
1(2)	案内の案内における語句を読み、その内容を簡単に要約している語句を選択する	読解を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○	○	○	11.4	13.3	77.7	66.3	64.4
1(3)	案内の案内における語句を読み、その内容を簡単に要約している語句を選択する	読解を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○	○	○	15.6	17.2	67.0	51.4	49.4
2	図物に関する情報を得るために自動音声案内を読み、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	日常的な話題について、目的に応じて英語を読み、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	9.4	9.1	70.2	60.8	61.1
3	バーベキューパーティーについての説明を読み、重要な情報として取り出すことができるかどうかをみる	日常的な話題について、自分の書かれた状況などから判断して、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	8.5	13.1	54.3	45.8	41.1
4	英語について読む英語を読み、話し手も伝えたい英語を読み取る	社会的な話題について、短い説明の要点を捉えることができるかどうかをみる	○	○	○	13.5	17.5	72.3	58.8	54.8
5(1)	ある状況を示す英語を読み、その内容を簡単に要約している語句を選択する	読解を正確に読み取ることができるかどうかをみる	○	○	○	3.0	6.8	62.8	59.6	56.4
5(2)	事象や考えが書かれた英文を読み、考えを表現している語句を選択する	「事実・情報を伝える」と「考えや意見を伝える」という意図の働きを理解し、事実と意見を区別して読むことができるかどうかをみる	○	○	○	2.8	6.8	71.3	68.5	64.5
6	友達からのメールを読み、相手を示した条件に合うものを選択する	日常的な話題について、自分の書かれた状況などから判断して、必要な情報を取り出すことができるかどうかをみる	○	○	○	7.4	8.8	44.7	37.3	35.1
7(1)	図表について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文と関係を読み取り取ることができるかどうかをみる	○	○	○	12.6	15.7	75.5	62.9	59.8
7(2)	図表について書かれた英文を読み、その概要として適切な語句を選択する	日常的な話題について、短い文章の概要を捉えることができるかどうかをみる	○	○	○	9.2	8.9	43.6	34.4	34.1
8(1)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の考えを伝える適切な語句を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	○	○	○	11.7	17.3	73.4	61.7	56.1
8(2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の考えを伝える適切な語句を選択する	社会的な話題について、短い文章の要点を捉えることができるかどうかをみる	○	○	○	9.0	11.4	30.9	21.9	19.4
9(1)	与えられた英語を適切な文に入れたり、不足している語句を補ったりして、語句が成り立つように英文を完成させる	本表現 (be some to) の特定文法正確に書くことができるかどうかをみる	○	○	○	3.2	8.5	48.9	45.7	40.4
9(2)	与えられた英語を適切な文に入れたり、不足している語句を補ったりして、語句が成り立つように英文を完成させる	問題文を用いた一般動詞の2人称単数形を正確に書くことができるかどうかをみる	○	○	○	9.0	11.0	31.9	22.9	20.1
9(3)	与えられた英語を適切な文に入れたり、不足している語句を補ったりして、語句が成り立つように英文を完成させる	「相手の行動を促す」という意図の働きを理解し、適切な表現を正確に書くことができるかどうかをみる	○	○	○	7.0	13.6	42.6	36.6	29.4
10	学生生活 (行事や部活動など) の中から紹介した内容の1つを選び、それを説明するまたはその内容を要約する	日常的な話題について、事象や自分の考えなどを説明し、相手と共感ある文章を書くことができるかどうかをみる	○	○	○	0.1	1.1	8.5	8.4	7.4

国語において特に顕著に表れていることが分かりました。これは、中国研の研究内容が生徒に思考、判断、表現する力をつけるのに効果的であることの証明だと捉えています。

これまで中国研が取り組んできた、どの領域においても「考えの形成」を主軸に置いた単元構想は、一つの完成形であると考えます。これらを単元構想表という新しいツールを使い表したものを、美濃大会で見せていきたいと思えます。

しかしその反面、その特徴が他の教科に広がっていないことから、国語でつけた思考、判断、表現する力が教科横断的に活用できているとは言い難いことも、明らかになりました。また、漢字や言語事項、古典の分野など、知識、技能に関する問題には弱さがあることも分かりました。

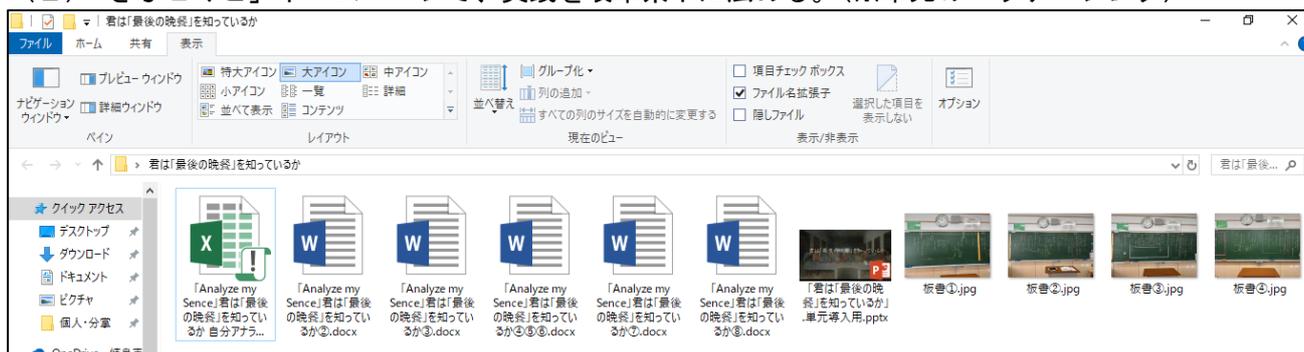
単元を通して生徒が間違いなく力をつけ、そしてそれを実感するためには、自分の学びの現状を適切につかむ必要があります。そして、単元に取り組む中で自己評価を繰り返すことで、自らの学びを調整していくことが大切です。また、教師の側はそのように個性化された学びを適切に捉え、それぞれに個別化した指導をしていく必要があります。

以上のことから、今年度は研究内容の②③について、それぞれの部員がそれぞれの場所で実践を行いながら、ブラッシュアップしていきましょう。美濃大会に向けて、美濃地区の先生方が単元構想、指導案作成をしてくださっています。それらを「事前研」として取り組み、「指導案検討」の場でフィードバックしていきましょう。

昨年まででつくった単元構想を、「具体的な手立てと評価」という形にすることで、今年度の研究を進めていきます。

詳細な研究の方向性については、各領域部長より提案していただきます。

(2)「ぎふこくご」ホームページで、実践を岐阜県下に広める。(※単元のパッケージング)



現在「ぎふこくご（中国研HP）」には、全ての領域において複数の実践資料が掲載されています。今年度は美濃大会で提案される単元に係る実践資料を新たに掲載し、いつでもどこでも閲覧できる状態にしていきたいと思ひます。

単元構想表、指導案はもちろん、単元で使用した資料や学習ワークシート、単元導入用プレゼンテーション資料等、その単元を行う上で必要なものをパッケージングして掲載していきたいです。また、美濃大会で提案された授業の様子なども閲覧できるようにしていきたいと思ひます。

以下に示すのが、令和6年度の実践の流れです。

【令和6年度 実践の流れ】

- ① 美濃大会に向けて作成された単元を、各部員で共有する。
- ② 共有した単元を、授業者の意図を踏まえた上で独自に解釈し、実践する。
- ③ 明らかになった成果と課題、修正点を部会で共有する。
- ④ ③を踏まえて修正・完成した単元を、美濃大会で提案する。
- ⑤ それぞれが使った教材等について部会で検討し、単元をパッケージングしてHPにアップする。

※各領域が美濃大会で提案された単元に関わる板書、ワークシート、プレゼンなどを持ちより、HPにあげるものを選択する。

令和6年度 岐阜県中学校国語科研究会 全体研究構想図

学習指導要領改訂において、学校現場に求められていること（学習指導要領解説 総則編より）

- ・社会構造や雇用環境は、予測が困難な時代となっている。一人一人が持続可能な社会の担い手として、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め、情報を再構築していくなどして、新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすること。
- ・生涯にわたって学び続けることができるようにするために、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図ること。
- ・学校全体で学習効果の最大化を図るカリキュラムマネジメントの実施と、「個別最適な学び」「協働的な学び」の充実を行うこと。

令和3年度全面実施の 学習指導要領 国語科の目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- (2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。
- (3) 言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

岐阜県全体としての生徒の実態

- ・令和5年度全国学力・学習状況調査の結果によると、中学校国語の岐阜県の平均正答率は71%となっており、全国の平均正答率（69.8%）を上回っている。このことから、知識及び技能の定着状況や、知識及び技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力は概ね身に付いているといえる。
- ・全体としては、全国平均を上回ってはいるが、依然平均点の半分に満たない生徒が1割程度存在する。
- ・生徒質問紙「国語の勉強は好きですか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、56.4%（全国平均61.4%）、「国語の授業の内容はよく分かりますか」の質問に対して、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒は、80.1%（全国平均80%）である。このことから、正答率の高さとは裏腹に、「国語が好きだ」、「国語は分かりやすい」と感じている生徒の割合や、成就感を感じている生徒の割合は低いといえる。

【願う生徒の意識と姿】

- ・国語の学習に対して、魅力や必然性を感じ、言語活動を通して、主体的に学習課題の解決に向かおうとする姿
- ・単位時間の授業の中で、確実に「生きてはたらく言語能力」に掲げた力を身に付けている姿
- ・「分かる・できる」「前よりよくなった」という実感をもち、学びに向かう力を高めようとする意識

研究主題 生きてはたらく言語能力の育成 ～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

〈仮説〉

- ①学習指導要領の指導事項と照らし合わせ、「生きてはたらく言語能力」とは何かを明確にし、
- ②「話したい・聞きたい」「書きたい」「読みたい」「知りたい」（＝楽しい）と生徒が願うような魅力的で、必然性のある教材開発を行い、
- ③講義式のみでなく、生徒が主体的・対話的に学べる学習形態・学習方法・学習過程とは何かを見極め、言語活動の充実を通して適切に指導し、
- ④全体指導以外にも「得意を伸ばす手立て」「苦手を克服するための手立て」（個別最適な学習）を位置付けることで、全ての生徒に学びを確保し、
- ⑤単位時間の学習の中で、「分かる・できる」「前よりよくなった」という言語能力の高まりを実感することができる場を位置付け、次への学びに向かう力を高めることができれば、
生徒は、「生きてはたらく言語能力」を身に付け、【願う生徒の意識と姿】に近づいていくであろう。

〈研究内容〉

研究内容① 指導計画の工夫

(1) 実践の再現性を高めるための、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成

- ・「生きてはたらく言語能力（指導事項）」が明確であり、指導と評価の一体化を意識した、指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成。
- (2) **生徒にとって学ぶ魅力・必然性があり、社会生活につながる力を育む言語活動や単元の構想・開発**
 - ・「やりたい」「やるとできるようになる」といった生徒の意欲を喚起することができるような教材開発・題材開発の工夫。
 - ・「いつでも、どこでも、だれにでもできる」と思える汎用性の高い単元構想の工夫。
 - ・教科横断的、汎用的な力を付けるために最適な言語活動の工夫。

研究内容② 指導・援助の工夫

(1) 生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫

- ・「自己内対話」「他者間対話」「教材との対話」など、領域や教材に応じた対話的な活動の設定。
- ・ICTを効果的に活用した追求や交流など、新たな指導方法の可能性を見出す工夫。
- ・確かな根拠に裏付けられた、論理的な考えの形成を行うための指導の工夫。

(2) 「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫（個別最適な学習の充実）

- ・生徒の学習状況を適切に見取り、B基準に達することができるような指導の工夫。
- ・生徒の個人目標を共有し、その達成に向けた援助の工夫。

研究内容③ 評価の工夫

生徒自身が単位時間や単元での自己の高まりを実感することができる指導・評価の工夫（指導と評価の一体化）

- ・生徒がなりたい姿やつけたい力を明確にし、その獲得までの見通しを具体的にもつための個人目標の設定。
- ・自己の変容を具体的な姿や形で自覚し、成長を実感することができる振り返りの工夫。
- ・具体的な評価方法や場を設定した評価の在り方の工夫。

※上記の〈研究内容〉を踏まえ、「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」「言語文化」の各領域で重点を決定し、研究を進めていく。

A 話すこと・聞くこと部会 令和6年度の研究方向

話すこと・聞くこと部会部長 大垣市立上石津中学校 片山 博寿

令和6年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「話すこと・聞くこと」部会における目指す生徒の姿

- ◎ 言語活動に魅力を感じながら、学習の目的を自覚して、見通しをもって主体的に学ぶ姿
- ◎ 目的や場面に応じて、適切に話したり聞いたり話し合ったりすることで、言語能力を身に付ける姿
- ◎ 自己の姿をメタ認知しながら、変容や学びの深まりを自覚し、別の場でも生かそうとする姿

令和6年度 「話すこと・聞くこと」部会 研究主題

目的や場面に応じて適切に表現する能力の育成

～テーマ設定の工夫と、目指す生徒の姿の具体化を通して～

研究仮説

- ・ 生徒が「話したい、話し合いたい」「話さなければならない、話し合わなければいけない」という思いを抱く、魅力的で必然性のある言語活動を設定することで、生徒は主体的に学習に取り組むであろう。
- ・ 単元において、生徒にどのような力を身に付けさせるのかを具体化することで、学習する目的を生徒と共有することができ、効果的に力を付けられるであろう。

(1) 指導計画の工夫

- ① 生徒にとって学ぶ魅力・必然があり、日常生活や社会生活につながる力を育む言語活動の設定
 - ・ 生徒が積極的に言語活動に取り組む中で、自然と指導事項に関わる力が身に付くようにする。
 - ・ 内容面の充実と、話す、話し合う方法の獲得のバランスを大切に指導をする。
- ② 「実践してみたい！」と思える再現性の高い単元の開発・県の先生方との共有
 - ・ 県の先生方と協力して、よりよい単元をつくり、よりよい指導方法を共有する。

(2) 指導・援助の工夫

- ① 「主体的・対話的で深い学び」を実現するための指導の工夫
 - ・ 生徒が目指すべき姿を明確にもつことのできるモデル提示をする。
 - ・ タブレット端末等を効果的に用いた自己評価や相互評価をする。
- ② 一人一人に必要な力を身に付ける個別最適な学びの実現
 - ・ 「苦手を克服するための手立て」と、「得意を伸ばす手立て」をする。

(3) 評価の工夫

- ① 学びの深まりを実感できる評価の工夫
 - ・ 生徒が、単元を通して、「何ができるようになったか」を自覚できるようにする。
 - ・ 獲得した学びを、日常生活や社会生活において、どのように活用するとよいかを生徒と共有する。

B**書くこと部会****令和6年度の研究方向**

書くこと部会部長 可児市立東可児中学校 梅田 佳宏

令和6年度 中国研 研究主題**生きてはたらく言語能力の育成**

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

目指す生徒の姿

- ◎書く魅力や必然性を感じ、主体的に学習課題の解決に向かう姿
- ◎見方や考え方を働かせながら、論理の展開や表現の仕方、その効果等について考えたり判断したりして、自分の伝えたいことをよりよく表現する姿
- ◎「前より～がよくなった」「〇〇すると～な文章が書ける」「もっと～な書き方を知りたい」と実感をもち、実生活に生かそうとする姿

令和6年度 「書くこと」部会 研究主題**相手，目的や意図，場面や状況に応じて，****考えが伝わる文章を書く能力の育成**

～論理の展開や表現の効果を考え，工夫して書くことができるための指導の在り方～

研究仮説

- ・指導事項と生徒に身に付けさせたい言語能力とを照らし合わせ、生徒に魅力や必然性のある題材を設定すれば、生徒は主体的に学習課題の解決に向かっていくだろう。
- ・学習の方法や形態を工夫し、個別最適な学習の場を位置付ける中で、生徒が見方・考え方を活用しながら思考・判断できるようにすれば、生徒は伝えたいことを工夫して書く力を付けるだろう。
- ・学んだことを再認識したり、思考や判断の過程を言語化したりして、生徒が考えや成果物の変容に気付く場を設定すれば、生徒は自己の学びを実感し実生活に生かしていくだろう。

(1) 指導計画の工夫**①指導計画と評価計画を組み合わせた単元構想表の作成と活用**

- ・系統性を踏まえて、この単元や題材で身に付けさせたい資質・能力を明確にする。
- ・資質・能力を身に付けさせるために、どのような姿や記述ができればよいか、生徒の具体的な姿を明確にする。

②生徒が書く魅力や必然性を感じる題材や言語活動の更なる工夫

- ・生徒が「書きたい」「書いてみたい」と思える題材や言語活動の工夫をする。
- ・誰でも、どの学校でも、「できそうだ」と思える汎用性のある単元や題材開発の工夫をする。

(2) 指導・援助の工夫**①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫**

- ・タブレット端末等を活用して、生徒が論理の展開や表現の仕方、その効果等を思考したり判断したりして、表現する学習スタイルを開発する。
- ・ペアや小集団等の学習形態やその編成等の工夫をする。

②「どの子」にも、生きてはたらく言語能力を身に付けるための手立ての工夫

- ・「苦手を克服する手立て」「得意を伸ばす手立て」等、生徒の特性に合った手立ての工夫をする。

(3) 評価の工夫**①単元や単位時間の終末における自己の高まりを実感できる評価の在り方**

- ・どの場面で、何で評価するか、具体的な生徒の姿に基づいた振り返りの視点を明らかにする。
- ・生徒が自分自身の思考や判断の過程、考えや成果物の変容を捉えて言語化する場の在り方の工夫をする。(タブレット端末等の活用)

C 読むこと部会 令和6年度の研究方向

読むこと部会部長 下呂市立下呂中学校 上條 亘

【令和6年度 中国研 研究主題】

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

【目指す生徒の姿】

- ◎読み方が分かり、目的をもって主体的に読むことの学習に取り組むことができる生徒
- ◎根拠を明確にして自分の考えをつくり、伝え合うことで再構築ができる生徒
- ◎言語活動を通して、読む力の伸びを実感し、習得したことを他の単元や実生活で活用できる生徒

【令和5年度 読むこと部会 研究主題】

文章を主体的に読み深め、自分の考えを広げ深める生徒の育成

～自分の考えを形成する学習過程と、高まりを実感する評価に重点を置いた「読むこと」の指導の工夫～

【研究仮説】

「読むこと」に関わる単元の学習を通して、根拠を明確にして考えを形成する単元構想に重点を置き、互いの考えを伝え合うことで、自分の考えを再構築する活動を行ったり、自己の変容を実感できる評価を行ったりすることで、より主体的、目的的に読み深める力や、自分の考えを広げ深めたり、豊かに表現したりする力を身につけることができる。

【研究内容】

(1) 指導計画の工夫

- ①「生きてはたらく言語能力」の更なる明確化と中国研ホームページを活用した情報の共有
 - ・「生きてはたらく言語活動一覧表」の具体的な実践と加筆修正
 - ・「読むこと」における実践の黑板写真、授業資料の作成 ※分担して実践を集積
- ②学ぶ魅力・必然性のある教材開発
 - ・「読みたい」「読まなければならない」といった学びに向かう力を大切にした教材開発・題材開発の工夫
 - ・生徒の意識の流れを考慮し、「考えの形成、共有、再構築」の学習過程を重視した指導計画の作成

(2) 指導・援助の工夫

- ①生徒が「主体的・対話的で深い学び」を獲得するための指導の工夫
 - ・「読むこと」の学習における学習形態の工夫 ※付けたい力を明確にした言語活動の設定
 - ・「読むこと」における仲間との交流方法の工夫（交流の意図や視点の明確化）
- ②「どの子」にも「生きてはたらく言語能力」を身に付けるための手立ての工夫
 - ・「苦手を克服するための手立て」「得意を伸ばす手立て」を踏まえた授業の創造
- ③身に付けた力を他の単元や実生活で活用するための手立ての工夫
 - ・身に付けた力を「見える化」し、整理・分類・蓄積するためのノート指導

(3) 評価の工夫

- ①単元目標達成までの見通しと、具体的な個人目標の設定を行う導入の在り方の工夫
 - ・単元目標と言語活動の内容を明確にした導入
 - ・その単元における生徒の個人内目標を具体的にする場の設定
- ②単元で身につけた力を実感する終末の在り方の工夫
 - ・個人目標の達成に向けて、学習の調整を行う場の設定

言語文化部会 令和6年度の研究方向

言語文化部会 部長：各務原市立蘇原中学校 河合 のぞみ

1 今年度の研究方向

令和6年度 中国研 研究主題

生きてはたらく言語能力の育成

～言語能力の高まりを実感する言語活動の充実を通して～

「言語文化」部会として目指す生徒の姿

- ◎古典の世界と、身近な生活とのつながりを感じ、古典に親しむ生徒
- ◎社会生活において必要な国語の特質について理解し、それを適切に使う生徒
- ◎国語における知識や技能を、他教科や日常・社会生活において主体的に活用する生徒

令和6年度 「言語文化」部会 研究主題

言語に親しみ、社会生活につなげる能力の育成

～「言葉への自覚」を高める指導の工夫～

研究仮説

- ・古典における小学校での学習内容との系統性を踏まえて教材に取り組み、日常・社会生活とのつながりが意識できる言語活動を設定すれば、古典に親しみ、学習に取り組むことができる。
- ・語彙の獲得を目指し、話や文章の中で適切に選択して使うことを通して、言葉のもつ価値を認識し言語感覚が豊かになる言語活動を系統的に設定すれば、言葉への自覚を高めることができる。

研究内容

『言葉への自覚』を高める」の定義
→辞書的な意味を基に根拠を明確にして、文脈に即して言葉を理解したり活用したりすること。

(1) 指導計画の工夫

- ①多様な作品に触れ、伝統的な言語文化「古典」に親しむことのできる指導計画の工夫
 - ・「古典に親しむ」ことの定義や「古典に親しむ」ための言語活動が明確な指導計画を作成する。
- ②語彙の量を増やし、言葉についての理解を深めるための指導計画の工夫
 - ・言葉の意味の理解だけにとどまらず、自分の表現として獲得する言葉や、効果に気付かせたい言葉を単位時間ごとに明確にした指導計画を作成する。

(2) 指導援助の工夫

- ①古典を学ぶ意義の自覚を促し、自分の生活や生き方に生かすことのできる指導の工夫
 - ・作品の言葉や表現から、古典特有のものの見方や考え方、感じ方をとらえ、古典の魅力を見つけることができる指導・援助の工夫をする。
- ②「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語彙の量を増したり、言葉への理解を深めたりする指導の工夫
 - ・言葉の知識を「思考力・判断力・表現力」と関連付け、語句の理解を深め、すべての領域（話す・聞く・書く・読む）において言葉の知識を獲得し、活用できる指導の工夫を行う。

(3) 評価の工夫

- ①生徒自身が「言葉への自覚」の高まりを実感することができる評価の在り方の工夫
 - ・形式的な理解にとどまらず、正しい根拠を基にして、適切に言葉を選択し、用いることができたという実感ができる評価の場を設定する。

令和6年度 「ぎふこくご」実践論文の募集（要項）

岐阜県中学校国語科研究部会では、「ぎふこくご賞」として、岐阜県内の中学校国語科指導に関する実践論文を募集しています。岐阜県には、先生方の優れたご実践や先進的なご実践、新たな方向へと挑戦されているご実践が数多くあると思います。そうしたご実践を、県内の国語科部員の方々に広め、互いに学び合うことで、岐阜県の国語教育がさらに質の高いものになっていくことを願っています。

<趣 旨> 各校で日々実践されている、岐阜県内の中学校国語科指導の優れた実践、意欲的な実践を広めていくことで、国語科指導の在り方について学び合い、指導力の向上をめざす。

<観 点> ・国語教育の今日的な課題に応える提案性
・子どもの実態に基づいた仮説、研究内容、検証

<主 催> 岐阜県中学校国語科研究部会

<募集領域> 中学校国語科指導、図書館指導に関する実践

<募集部門> ○論文部門 ○ダイジェスト部門

<応募資格> 岐阜県内の中学校、特別支援学校に勤務する教職員

<形 式> ・2部門ともA4サイズで、体裁等は問わない。資料等の添付も可。
・論文部門のページ数は自由。
ダイジェスト部門は指導案や資料+A4一枚の実践のまとめ、または指導案のみでも可とする。

<応募先> 〒509-0304 加茂郡川辺町中川辺 1 3 6 7
川辺町立川辺中学校 中国研 研究副総括 細江 隆一
アドレス：c40913@mx.gifu-net.ed.jp

※応募していただく論文は各地区の教育実践論文に応募したものと**同じものでも結構**です。

※メールで送っていただくのも可です。その場合はPDFで送ってください。
CDで送っていただくのも結構です。

<応募締切> 令和7年1月9日（木）17：00必着



多くの先生方の応募をお待ちしています！！



【資料①】

令和5年度 代議員の皆様へ

令和6年度県中国研 総務部長
郡上市立白鳥中学校 上村 光一

令和6年度 県中国研代議員の引き継ぎ等について

本年度のスタートを迎え、ご多用であると存じます。代議員の先生方には、県中国研の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、令和6年度の代議員の確認、及び引き継ぎについてご連絡いたします。昨年度末の代議員会において、次の代議員のご報告をお願いしているところです。あらためて、代議員が決定しましたら、次のような進め方で報告をお願いしたいと思います。

【「アンケートフォーム」を用いた代議員の確認】

(手順)

- ① Google フォームにリンクしている、右の QR コードをスマートフォン・タブレット等で読み込む。



- ② アンケートフォームにご回答いただく。

* フォームには メールアドレスを入れてもらう項目があります。これについては、資料などの送付のために使用いたしますので、学校のアドレスもしくは連絡が可能な個人のアドレスをご入力ください。もし不具合等で送信ができない場合は、次ページの引継ぎ用資料をご使用ください。

- ③ R6年度の代議員さんに下記のメールアドレスをお伝えいただき、

「代議員の学校名」・「代議員の氏名」・「今後連絡の取れるメールアドレス」を

送付していただきますよう、ご連絡をお願いいたします。(書式は問いません)

* なお、メールでの送付ができないご事情があれば、Faxでも対応いたしますので、その際はFax番号を送付していただけると幸いです。

[送付先メールアドレス] ko.uemura@gujo.ed.jp

[連絡先・お問い合わせ] 郡上市立八幡中学校 上村 光一(うえむら こういち)

TEL 0575-67-1010 fax 0575-67-1011

お手数ですが、よろしく願いいたします。

FAX 送信票

代議員引継ぎ資料

郡上市立 八幡中学校

上村 光一 宛

FAX 番号 0575-67-1011

令和6年度 中学校国語科研究部会代議員

報告用紙

令和6年度（【地区名】 ） 代議員

_____ 中学校 _____

連絡用メールアドレス

報告者

※新代議員本人の場合は記入の必要はありません

_____ 中学校 _____

(令和5年度)

収支決算書

部会名 支部	岐阜県中学校国語研究部会	部会 支部 No.	10
部会長 支部長	村田 伊津子	職印	印

(収入)

科 目	予 算 額		収 入 額
	当 初 予 算	更 正 予 算	
会 費	282,100	275,900	275,900
補 助 金		20,000	20,000
雑 収 入	588	1	1
繰 越 金	312	312	312
計	283,000	296,213	296,213

(支出)

事業	科 目	予 算 額		支 出 額	予 算 残 高	
		当 初 予 算	更 正 予 算		当 初	更 正
研究大会事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費				0	0
	使用料及賃借料				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究調査事業	賃 金				0	0
	報 償 費				0	0
	旅 費		40,790	40,790	△ 40,790	0
	会 議 費		10,000	10,000	△ 10,000	0
	消 耗 品 費		15		0	15
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費				0	0
	通 信 運 搬 費	1,000	3,570	3,570	△ 2,570	0
	使用料及賃借料	30,000	0	0	30,000	0
	分 担 金				0	0
	助 成 金				0	0
	積 立 金				0	0
小 計	31,000	54,375	54,360	△ 23,360	15	
図書	図 書 購 入 費				0	0
	小 計	0	0	0	0	0
研究成果刊行事業	報 償 費				0	0
	旅 費				0	0
	会 議 費				0	0
	消 耗 品 費				0	0
	食 糧 費				0	0
	印 刷 製 本 費	212,000	198,198	198,198	13,802	0
	通 信 運 搬 費	40,000	43,640	43,640	△ 3,640	0
	使用料及賃借料				0	0
小 計	252,000	241,838	241,838	10,162	0	
総 計	283,000	296,213	296,198	△ 13,198	15	

(令和6年度)

予 算 書

部 会 名 支 部	岐阜県中学校国語研究会	部 会 No. 支 部	10
部 会 長 名 支 部 長	村田 伊津子	職 印	印

(収 入)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
会 費	275,900 円	620円×445人
雑 収 入	85	
繰 越 金	15	
合 計	276,000 円	

(支 出)

科 目	予 算 額	積 算 内 訳
研究大会事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 = 0
	通 信 運 搬 費	
使用料及賃借料	円 × 日 = 0	
小 計	0	円
研究調査事業	賃 金	円 × 人 = 0
	報 償 費	円 × 時間 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 日 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
		円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 × 回 = 0
	印 刷 製 本 費	円 × 部 × 回 = 0
	通 信 運 搬 費	1,000
	使用料及賃借料	30,000 円 × 日 = 0
分 担 金		
助 成 金		
積 立 金		
小 計	31,000	
図書	図 書 購 入 費	円 × 冊 = 0
	小 計	0
研究成果刊行事業	報 償 費	円 × 時間 × 人 = 0
	旅 費	円 × 人 × 回 = 0
	会 議 費	
	消 耗 品 費	
	食 料 費	円 × 人 = 0
	印 刷 製 本 費	198,000 400 円 × 495 部 = 198,000
	通 信 運 搬 費	47,000
	使用料及賃借料	円 × 日 = 0
小 計	245,000	
合 計	276,000 円	

「ぎふこくご」No. 75 2025年2月 発行予定内容

- ◆《巻頭言葉》 会長 村田 伊津子
- ◆国語科教育への提言 岐阜県教育委員会 義務教育課 馬場 雅也 先生

※これまでの流れ

No. 74 . . .	岐阜県教育委員会 義務教育課	加藤 尚子 先生
No. 73 . . .	岐阜県教育委員会 学校支援課	加藤 尚子 先生
No. 72 . . .	可茂教育事務所教育支援課	今井 則雄 先生
No. 71 . . .	なし	
No. 70 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	西門 純 先生
No. 69 . . .	岐阜教育事務所教育支援課	富田 泰仁 先生
No. 68 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	山田 高秀 先生
No. 67 . . .	美濃教育事務所教育支援課	高橋 友之 先生
No. 66 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	藤根 隆 先生
No. 65 . . .	可茂教育事務所教育支援課	河合 広映 先生
No. 64 . . .	岐阜県教育委員会学校支援課	佐野 政紀 先生

◆令和6年度 各部会の歩み

- ・ 県中学校国語科研究部会の動き 主務者 小宅陽久
- ・ 研究部の歩み 研究総括 北原章大
- ・ 話すこと・聞くこと部会 部長 片山博寿
- ・ 書くこと部会 部長 梅田佳宏
- ・ 読むこと部会 部長 上條亘
- ・ 言語文化部会 部長 河合のぞみ

※各研究部で考えていただいた研究の方向と指導案などをそのまま掲載できればと考えています。

- ◆令和5年度実践記録ぎふこくご賞の指導案
- ◆歴代のぎふこくご賞受賞者一覧
- ◆令和6年度県中国研役員、研究部員組織一覧
- ◆岐阜県中学校国語科研究部会会則
- ◆中学校教育研究会国語部会則

【広報部員】加藤 祐輝

【印刷業者】昭和ぷりんと Tel 058-294-8781 nrj00751@nifty.com

【原稿送り先】〒509-0207

岐阜県可児市今渡112 蘇南中学校 加藤 祐輝

電子メール アドレス : katou-yuuki@school.city.kani.gifu.jp

※原稿は、ホームページにもアップしたいので、電子メールに添付でお願いします。

原稿依頼	11月初旬
原稿締め切り	12月中旬
原稿チェック	12月下旬
原稿を業者に提出	12月下旬
校正・原稿チェック	1月上旬
製本	1月中旬
配布準備	業者依頼
配布	2月上旬 代議員会

【役割分担】

原稿依頼や業者との連絡等は加藤がやります。

原稿チェックに主務、研究総括の先生方、お力をお貸し下さい。

令和6年5月15日

県内各中学校長 様
県内各義務教育学校長 様
県内各特別支援学校長 様

岐阜県小中学校教育研究会
中学校国語科研究部会
会 長 村田 伊津子

令和6年度 第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会について

薫風のみぎり 貴台におかれましてはますます御清祥のこととお喜び申し上げます。日頃は、本会の活動に御理解と御高配を賜り誠にありがとうございます。

さて、本年度も、標記コンテストの事務を本会が担当し、別紙「令和6年度 第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定」に基づき実施することとなりました。

については、貴校の担当者に周知いただき、積極的な参加について御高配賜りますようお願い申し上げます。

お問い合わせ先

大垣市立北中学校	和田光平
電 話	0584-78-3591
F A X	0584-78-3543

第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加規定

1 目的

情報化社会に生きる中学生の、豊かな人間性の育成をめざし、中学校の特色ある教育活動の中核となる校内放送活動および放送教育の充実・発展をはかる。

2 ねらい

- (1) 美しく豊かな日本語を大切にする心情を育て、あわせて話す力、表現する力を高める。
- (2) 番組制作を通して、今後の校内放送活動の充実・発展をはかる。
- (3) 中学校生活の中に、うるおいを育み、教師と生徒の心のふれあいの場をつくる。

3 主催

全国放送教育研究会連盟，NHK，一般財団法人NHK財団
岐阜県小中学校教育研究会中学校国語科研究部会

4 後援

文部科学省

5 審査日

令和6年7月19日（金） [CD・DVD審査] —— 非公開

6 コンテストの各部門

- (1) アナウンス (2) 朗読 (3) ラジオ番組 (4) テレビ番組

参加の詳細については、各校に配布される「第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を参照のこと。なお、以下のアドレスにも関連情報が掲載されている。

放送コンテストについて <https://www.nhk.or.jp/event/n-con/jh/contest.html>

参加規程について https://www.nhk.or.jp/event/n-con/assets/pdf/41_guide.pdf

(1) アナウンス部門について

〈課題〉中学校生活の中から素材を求めた内容とする。

ア. 原稿は生徒の自作とし、校内ニュースやニュース解説など、自校の校内放送用のもの。

(複数の生徒が同一原稿を読むことは認めない。)

イ. 楽曲の一部分を歌唱する場合など、著作権の処理が必要な場合は原稿制作者の責任において使用許可を得たうえで、使用許可を得ていることを証明するものを添付すること。

ウ. アナウンス本文は、20字×20行以内におさめる。

エ. 録音は、アナウンス本文の前に、都道府県名、名前を述べる。(録音時の編集不可)

オ. 原稿は、A4判様式1-1、様式1-2を使って書き、2部(コピー可)提出する。

※この際、ホチキス留めをせず、紙は折らないまま提出すること。

カ. 提出CDは、アナウンス1名につき1枚とする。

キ. 提出CDは、CD-R (CD-DA形式 [音楽CDと同じ形式] で録音)。

※音声ファイル(WAV, MP3, WMA, AAC等)での提出は受け付けできません。

※提出前に複数の一般の機材(CDプレーヤー)で再生できることを確認すること。

ク. CDのラベルは様式2に従って記入し、貼付する。

(2) 朗読部門について

〈課題〉 次の指定作品のうち、1編をえらび、自分の表現したい部分を決め朗読する。作品のアレンジ・途中の省略は認めない。翻訳作品は、必ず指定された訳者による本を使用すること。

《指定作品》

- | |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <ul style="list-style-type: none">① 『羅生門・鼻・芋粥』より「鼻」 芥川龍之介著 (角川文庫)② 『窓ぎわのトットちゃん 新組版』 黒柳徹子著 (講談社文庫)③ 『生きるぼくら』 原田マハ著 (徳間文庫)④ 『線は、僕を描く』 砥上裕將著 (講談社文庫)⑤ 『ぶらんこ乗り』 いしいしんじ著 (新潮文庫)⑥ 『アルプスの少女ハイジ』 ヨハンナ・シュピリ著／松永美穂訳 (角川文庫) |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

〈注意〉 ※ () 内の出版社に限る。

※①は2007年改版のものに限る。

※②を選択する場合は『窓ぎわのトットちゃん』を作品名として読むこと

※原稿の提出にあたってはホチキス留めをせず、紙は折らないまま提出すること。

(3) ラジオ番組部門、(4) テレビ番組部門については全国大会の要項を参照し、参加すること。

7 表彰

(1) 各部門の1位を最優秀、2位を優秀賞、3位以下を優良賞または奨励賞とする。

各賞については審査内容により適宜変更する。例えば、最優秀賞に該当がないことなどもあり得る。

(2) 全国大会への推薦は、全国大会の規定に基づき、その最大エントリー枠の中で行う。

(アナウンス部門6名、朗読部門6名、ラジオ番組3本、テレビ番組3本を上限とする。)

(2) 入賞作品には賞状および副賞を贈る。

(3) 参加状況を考慮し、学校賞を贈る。

8 参加資格

(1) 令和6年8月現在、以下の学校および各種学校に在学中の生徒であり、またその作品であること。

① 中学校および中等教育学校の前期課程および義務教育学校の後期課程

② 特別支援学校の各中学部

③ 各種学校(修業年限が中学校と一致していること)

(2) ラジオ番組・テレビ番組部門は、参加資格に該当する学校の生徒の創作、制作に限る。また、他のコンクールなどに参加した作品及び参加予定の作品の参加は認めない。

(3) アナウンス・朗読部門は、同一人が両部門にエントリーすることはできない。

(4) ラジオ番組・テレビ番組部門は、同じ学校から部門ごとに各1本までエントリーすることができる。

(5) コンテスト参加作品の著作権は、制作者(応募した学校)に帰属する。その他、全国大会の規定を参照し、これに従うこと。

9 参加申し込み

◎以下の手順で、参加申し込みを行う。

(1) 参加を希望する学校は事前登録を行う。⇒⇒ 令和6年7月5日(金)までに

- ・参加を希望する学校は、別紙「岐阜県大会参加登録用紙」に必要事項を記入し、上記期日までに中国研情報部事務局担当者宛 FAXにて送信する。

(2) 参加校は、音源CD(テレビ番組部門においてはDVD)を作製し、中国研情報部担当者あて送付する。⇒⇒ 令和6年7月17日(水)必着

- ・このとき、原稿・台本(各2部)および録音・録画したCD・DVDを送付すること。エントリーナンバーの欄は空欄とする(全国大会参加の場合のみ、岐阜県大会事務局で記入する)。
- ・各様式等については、4月に各中学校に配付された「第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」の掲載様式を使用すること。
- ・作品の送付先(事務局)は以下の通り

〒503-0016 大垣市八島町2290番地

大垣市立北中学校 和田光平

電話 0584-78-3591

FAX 0584-78-3543

10 全国コンテストへの参加

優れた作品については、全国大会の規定に基づき、岐阜県大会事務局が全国コンテストへエントリーを行う。(岐阜県大会【下記】への参加が全国大会参加の条件となるので、直接全国大会に申し込みをしないよう注意すること)

予選：2024年8月3日(土)、4日(日) —非公開—

決勝：2024年8月20日(火) —公開—

※決勝の審査会場—千代田放送会館(東京都千代田区)

該当する学校には、岐阜県コンテスト終了後に連絡する。

11 その他

各部門の課題及び参加上の注意については、上記「第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト参加規定」を熟読し、失格とならないよう注意すること。

第41回NHK杯全国中学校放送コンテスト岐阜県大会参加事前登録用紙

学校名	立 中学校
参加部門	<p> 【1】 アナウンス (名) 【2】 朗 読 (名) 【3】 ラジオ番組 (あり・なし) 【4】 テレビ番組 (あり・なし) </p> <p> ※上記【1】～【4】の () に必要事項を記入して下さい。 ※別紙「岐阜県大会参加規定」の8に留意してください。 </p>
担当者名	(Blank)

F A X送信先 F A X番号	大垣市立北中学校 和田光平 宛 0 5 8 4 - 7 8 - 3 5 4 3
---------------------	--------------------------------------------